

DEEP INSIDE



「風神雷神図屏風」 俵屋宗達

BY WILD INVESTORS

DEEP INSIDE

1	欧州危機はバブルのこやし.....	1
2	投資戦略レビュー.....	11
3	「リートの検証」と「ソフトバンクが熱い」.....	18
4	ワールドレポート(欧州パリより).....	23
5	フランス・欧州トピックス.....	31
6	日本の伝統文化.....	45
7	編集後記.....	48

12

ワイルドインベスターズ
会員専用投資レポート
2010年12月号



欧州危機はバブルのこやし

2010年12月

ワイルドインベスターズ代表 安間 伸

=====

終わらぬ動乱 欧州の
上げては下げる 危機意識
じゃぶじゃぶ資金 垂れ流し
ITバブルを 思い出す

欧州危機はバブルの肥やし
ヘッジをかけながらボラを制御する

=====

[今月のおしながき]

1. 金融相場か業績相場か
2. ソブリン危機は「ウ コ漏れそうなとき」に似てる
3. データセンターバブル(DropBoxの話)
4. 日本が停滞する理由
5. まとめ

下落が多いとされた9-11月は、今年に限っては株式相場にとって良い時期でした。

欧州ソブリン問題が再燃し、政策が出され、短期的に落ち着く中で、彼らもいずれは量的緩和に追い込まれるでしょう。ある国やセクターでバブルが起こり、ある所で破裂し、別のところは忘れられて打ち捨てられています。その中ではっきりしているのは、

先進国の通貨価値は長期的に下落する

ということです。この基本線を外すことなくポートフォリオを構築し、バブルに乗るときは怪我のない範囲にとどめましょう。

1. 金融相場か業績相場か

先月は円安に救われた株式市場ですが、今月に入ってから好調に上がっています。特に先月売り込まれた PIIGS などの欧州勢が好調で 10%前後の上昇です。特にスペインは+12%と大反騰しています。新興国では上海・ブラジル・インドが冴えず、ロシア・韓国・オーストラリアは良いですね。

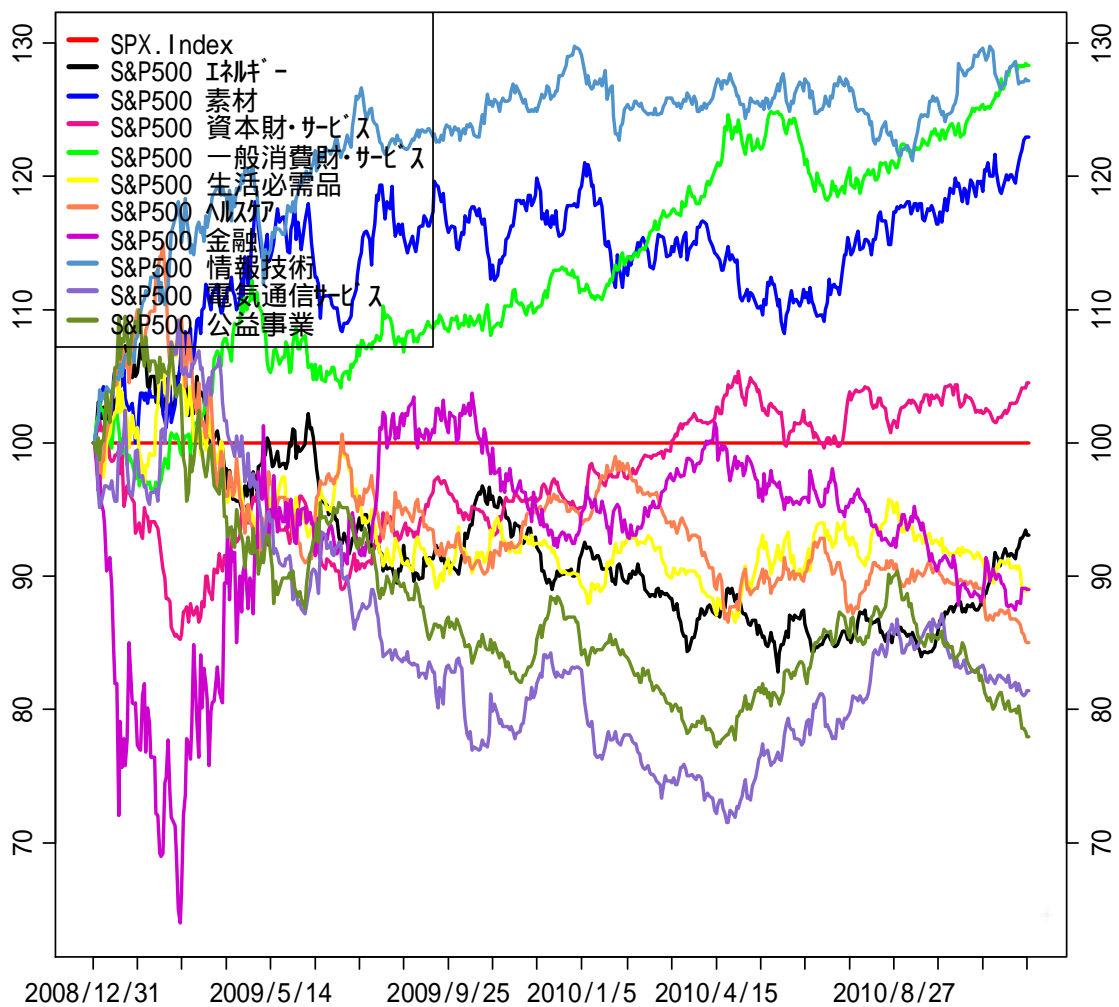
(表 1) 2010 年 12 月。 9 日までのパフォーマンス

JPY収益	現地通貨	為替	株価指数
4.78%	4.44%	0.32%	MSCI ワールド インデックス
4.00%	3.66%	0.32%	MSCI エマージング・マーケット・インデックス
4.38%	4.04%	0.32%	S & P 500 種
3.32%	3.32%	0.00%	TOPIX (東証株価指数)
3.46%	3.46%	0.00%	日経平均株価
6.88%	4.30%	2.48%	ドイツ DAX 指数
6.83%	4.82%	1.92%	FT 100 指数
0.66%	0.37%	0.29%	香港 ハンセン指数
1.40%	1.01%	0.39%	中国 上海総合指数
2.45%	0.69%	1.75%	ブラジル ボブスバ指数
2.82%	0.70%	2.10%	インド NIFTY 指数
6.84%	6.50%	0.32%	ロシア RTS 指数 \$
5.30%	3.14%	2.10%	韓国総合株価指数
6.52%	3.45%	2.97%	S & P / ASX 200 指数
11.45%	8.75%	2.48%	スペイン IBEX 35 指数
0.31%	-0.01%	0.32%	GOLD SPOT \$ / OZ

さてこれは果たして本格的な上昇なのか、単なる買戻しなのかと考えてみます。

(図 1) はおなじみ、米国 SP500 指数の 10 セクターを SP500 で割った相対価格の推移を示したものです。これによると最近では素材・一般消費財・エネルギーが好調。これまで牽引してきたハイテクは頭打ちながらもしぶとく底堅い。逆に金融・ヘルスケア・公益・電気通信などが弱いです。

(図1)



データ元Bloomberg

セクターの動きを見ると「**金融問題はくすぶっているけど、景気は強い**」という判断になります。

先日あるプロの方と「今は業績相場なのか金融相場なのか」という話になりました。私は「業績は二極化しつつも伸び、長期金利が上がり始め、M&A が増えている。よって業績相場」と言いました。その人は「業績は頭打ちになりつつあるが、カネ余りと期待感で株価が上がっている。よって IT バブルのときのような金融相場」と言いました。

解釈はそれぞれですが、「業績が伸びている国や企業に投資が集中してバブルになる」という環境が整ったということでは一致しました。そして**値動きがかなり激しくなってきました**ので、これも IT バブルのときにそっくりです。

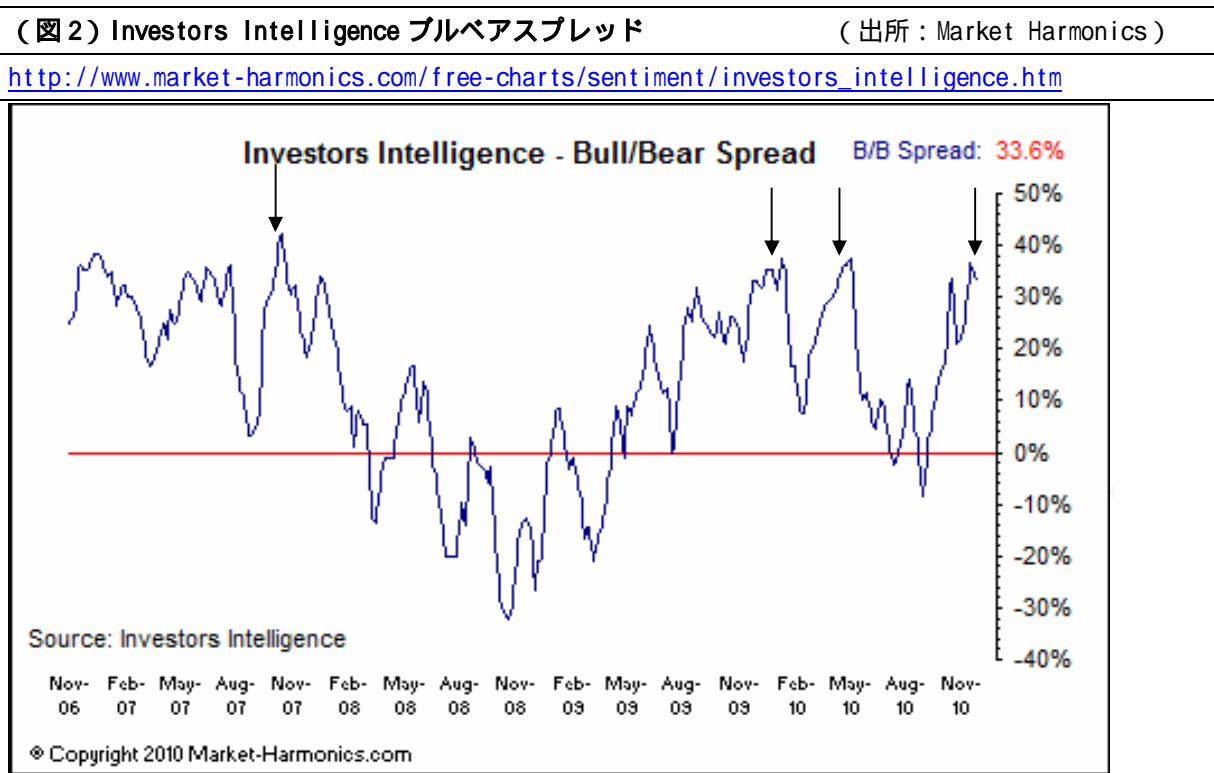
たとえば本レポートの個別ポートフォリオ内の銘柄を見ると、今月入れたばかりのカカコム (2371)、ドクタ・レディーズ・ラボ(RDY US)、インフォシス(INFY US)、F5 ネットワークス(FFIV)、

アクメパケット (APKT US) がそれぞれ 16%・7%・6%・4%・7%上がったかと思えば、タタモーター (TTM US)、インドステイト銀 (SBI F LI) が 4%、9%下がったりするわけです (タタは先月 21%上がっていたので反落もいたしかたないです)。

今のところ、バブルが終わる前兆はありません (たとえば短期金利が上がる、本屋に投資本が並ぶ、M&A や IPO が過熱するなど)。

唯一気になるのは投資家センチメントが強気過ぎることです。Investor Intelligence のブルベアスプレッド (図 2) は年初あるいは 4 月以来の高値である 35%に達していますから、短期的な調整はあるかもしれません。

ひとつの銘柄はボラが高いですが、長期的には通貨価値下落に備え、短期的には怪我しない程度にバブルの恩恵を受けつつ、全体としてリスクを見てゆくという方針です。



2. ソブリン危機は「ウ コ漏れそうなとき」に似てる

いきなりお下劣なタイトルですみません。

最近メルマガもレポートも他人行儀な書き方になってきたので、**自分を鼓舞して原点に立ち帰る**ためにやってみました。

言いたいことは書いてあるとおりですが、野暮を覚悟でご説明します。

不動産バブル崩壊などで不良債権が積み上がると、待っているだけでは普通は解決しません。それ自体が資金を固定化し、調達コストを上げ、銀行などの貸し手からキャッシュフローを奪ってゆか

からです。よほどの幸運や自助努力で解決することもあります、それは非常に稀です。

そういった国や銀行には循環的に「危機」が襲ってきます。

ひとつのヤマを超えて落ち着いたなと思っても、根本が解決していないので次の危機はより大きな波となって襲ってきます。それを何とかしのいだと思っても、次はさらに大きな波が襲ってきます。いつ終わるかという、「**出さない**と**終わらない**」のです。これが「ウ コ漏れそうなときと似てる」と書いた理由です。

(図3)は欧州などの5年ソブリン CDS スプレッドです。



PIIGS 問題が認識されたのは去年の終わりごろでしたが、それらの国の CDS は 2 月、4 月、6 月、9 月、11 月と循環的に上がってきました。

ギリシャ は国の規模が小さいです、もともと下痢 (ぶらさがり借金体質) がひどかったので**真っ先**に漏らしてしまいました。しかし**真っ先**に**飛ぶ**ところはしばしば**ラッキー**だったりします。まだみんなに余裕があって、親身になってケツを拭いてくれるからです。

他の国も余裕があるふりをしてギリシャの世話をしますが、実は自分もじわじわと臨界点に近づい

ているのです。しかし自分からトイレに行くことはできません。なぜなら「こんなになるまでウコを溜めた責任を取れええ！！！！」とライバルの経営者や政治家に攻撃さらされてしまうからです。

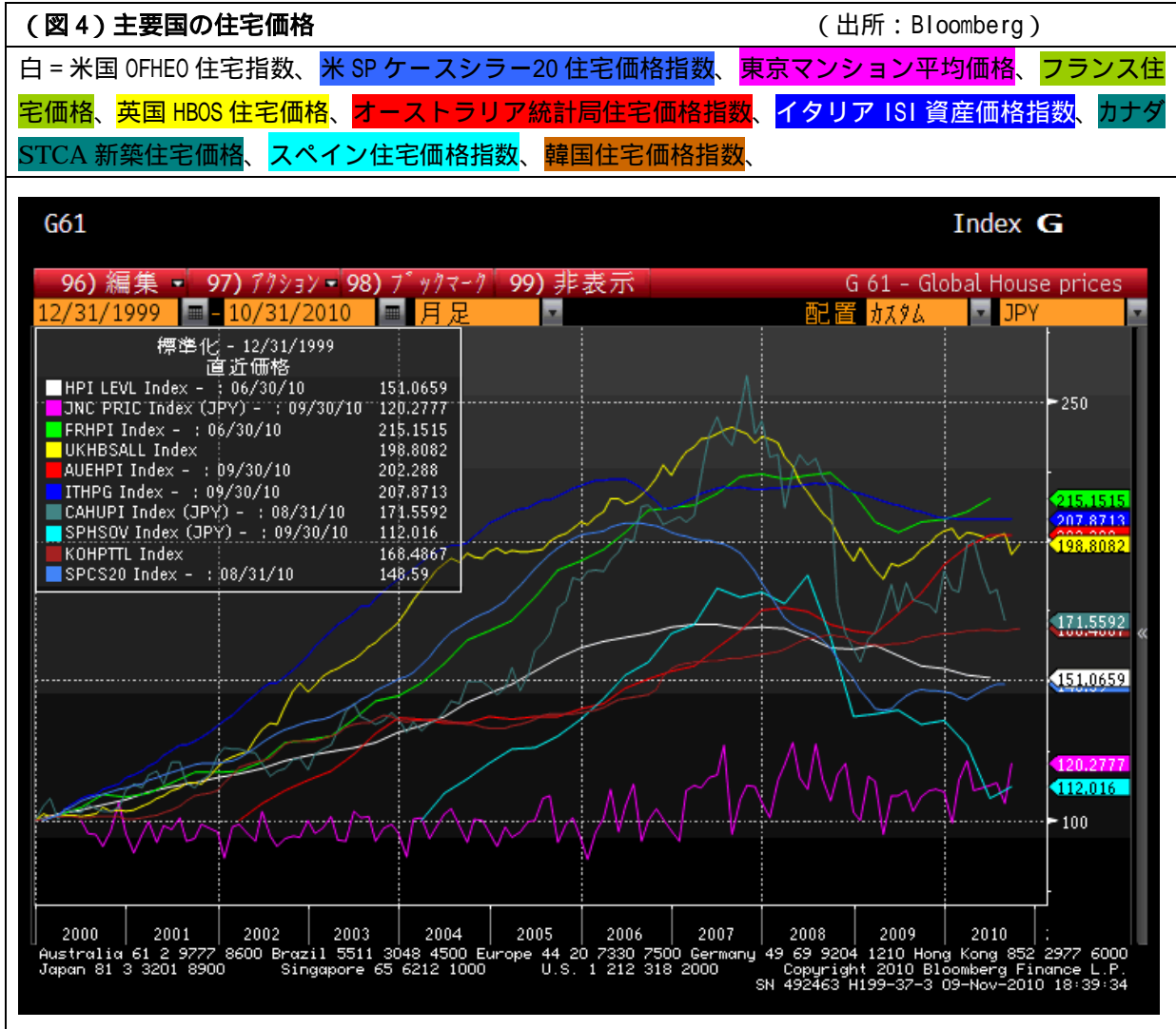
今回はアイルランドがネタでしたが、次はポルトガルになるでしょう。以前から言っているように、ユーロ圏で最大の問題はスペインです。ここがお漏らししてケツを拭くときにユーロがどうなるかわかりませんが、そこまで来てはじめてこの問題は一巡したといえるでしょう。

今月に入ってスペイン株は急騰しています。しかし

腐れ株は下落トレンドの中で ときおり急騰する

傾向があるので、底打ちしたと判断するのは危険です。日本の例でもわかるとおり、不動産バブルの傷は深いのです。

(図4) はいつもの住宅価格です。スペインはどう考えても買えないよなあ・・・。



3. データセンターバブル(DropBox の話)

さて今月のポートフォリオでは、勝ち組ハイテクの中から「データセンター関連銘柄」として F5 ネットワークス(FFIV)とアクメパケット(APKT)を入れました。それぞれネットのトラフィック管理、周波数帯割り当て機器を作っている会社です。

白状するとよくわかつらんのですが、これからはネットを通じて動画を配信し、大きなデータセンターにデータを置いて仕事をするようになるだろうなと思います。そういった実感と、利益の伸びを見て銘柄を選びました(それだけかい！)。

こう考えるのは、友人から DropBox を教えてもらったことがきっかけでした。

<http://www.dropbox.com/>

これはオンラインストレージと呼ばれ、ここに書類や動画を置けば、世界中どこからでもアクセスして取り出せるというものです。料金は 2GB まで無料、50GB で月 10 ドルとなっています。

<http://www.dropbox.com/pricing>

これはすごいでっせ・・・。

これまでこんなサービスは大企業か、自分でバーチャルネットワークを組める人ぐらいしかできませんでした(私はできません)。

セキュリティ上の問題はさておき、スーパー便利です。

ここに自分のファイルを置けば何でも取り出せちゃうんですよ。

どこでも仕事できちゃうんですよ。

情報拡散や更新管理やバックアップの手間が減るんですよ。

手元に資料がないって言い訳が使えなくなるんですよ。

— | |

昔は 1 時間何万円もしたテレビ電話が Skype で庶民に広がったように、このサービスは飛躍的な楽しみや生産性向上を個人にも与えると思います。

メールでお知らせしたとおり、私も試しに動画チャンネルを開設してセミナーの様子をアップしま

した。

逆張り動画チャンネル

<http://www.youtube.com/user/contrarian24>

これからはビジネスも娯楽も、ネットに比重が傾いてゆくでしょう。

それは以前から確信はしていましたが、予想以上のスピードと内容でそれが進んできています。

ネットの向こう側で作業して、自分の PC にバックアップ (=同期) を取るなんて時代がこんなにすぐ来るとは思っていませんでした。

それに感動しつつ、利益が伸びそうな銘柄を選んだ次第です。

4. 日本が停滞する理由

一方で、日本が停滞する理由もわかってきた気がします。

情報通信は結局アメリカのひとり勝ちです。IT バブル崩壊を食らっても次々に挑戦者と支援者が集まり、誰かが負け誰かが勝つことで世界的な勝者を生み出しています。

日本は人口動態もバブルの傷もあるでしょう。「挑戦しても報われない」とか「異才を持った人間が助けを得られない」のは制度が悪いのかもしれませんが。景気が悪くなると他人を支援する余裕もなくなるでしょう。

しかし最近の日本は「他人の才能を恐れ、嫉妬して足を引っ張る」傾向が強いように思います。「文句タレが出世し、フリーライダーが増え、働く人がやる気を失っている」ように見えます。「どうせ頑張ったって報われないし、おいしい思いをするのは俺じゃないからよ」という心理状態です。

これに対して「いや、頑張れば必ず報われるはずだ」と無責任なことを言うつもりはありません。仮にこの傾向が**文明的な特質**だとしたら、それを一気に根本から変えようとすれば自我崩壊のようなことになるからです。

まあ日本人はいざというときには名もなき人々が力を合わせますので、悲観しているわけではありません。しかし日本文明は西洋文明に比べて勝っているところもあるけれども、**自分自身や他人を統治したり、アイデアを持ち寄ってシステム化する**という意味ではまだまだ未熟であるなと思います。たぶんその発想が欠落しているか、無意識のうちに避けているのかもしれませんがね。

ですから勝ち組ハイテクを選ぶときは、どうしてもアメリカが多くなってしまいます。日本も少しはそれに追いつきたいところですが、まずは根本的な戦略思考・確率思考・システム思考を根付かせなくてはなりません。私も微力ながらそちらの方向に引っ張りたいと思います。

5. まとめ

引き続き、全体としてのリスクを考えながらバブルがどこに発生するかアンテナを張り巡らせようと考えます。ボラティリティと相関が上がってきたので、これまで以上に分散とリスクアロケーションに注意を払います。

「売りたい資産、買いたい資産」は変わりません。

[買いたい資産]

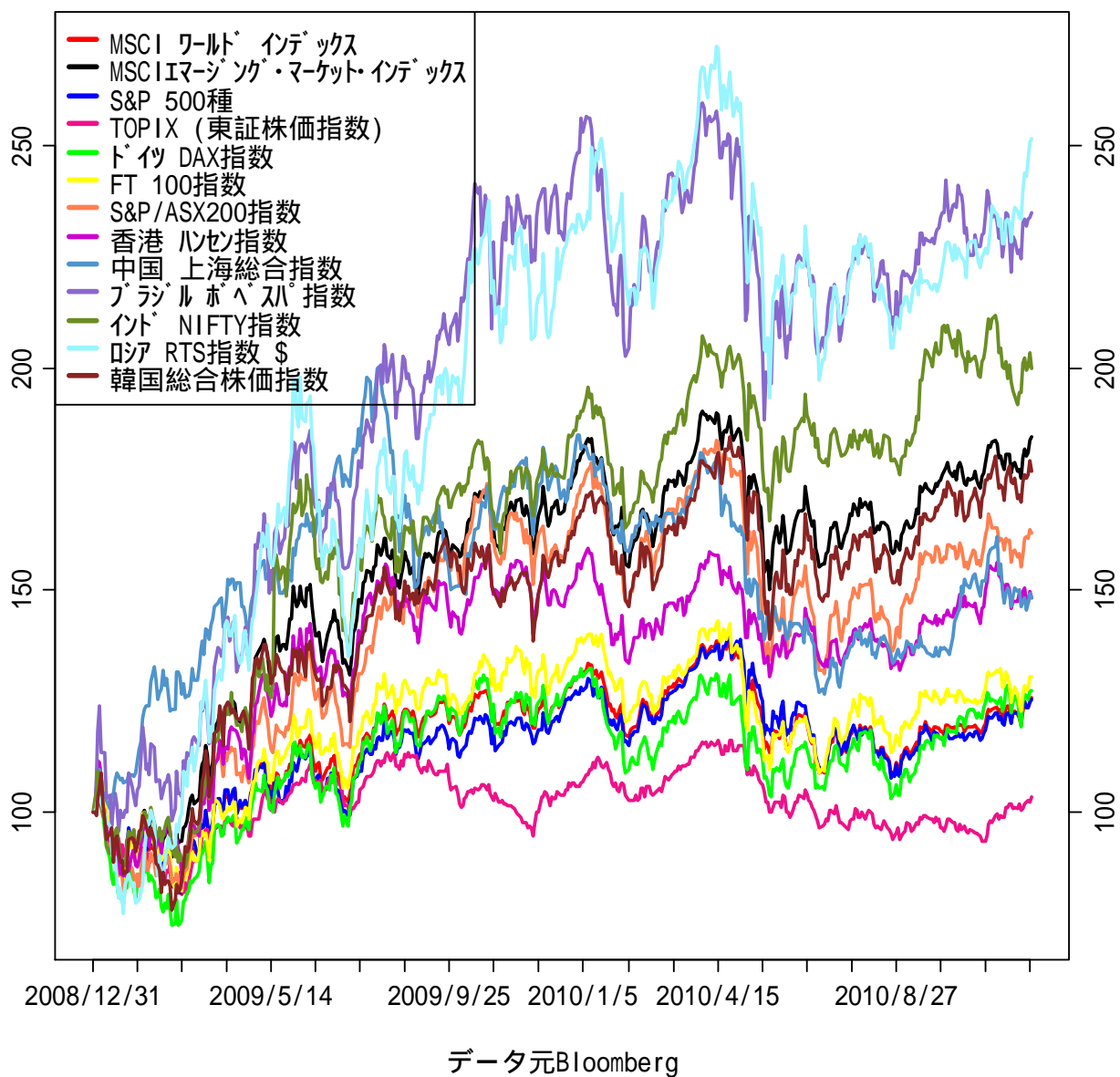
- (短期的バブル1) 生産要素が良好で不良債権とは関係のない新興国株式
- (短期的バブル2) 収穫逡増で爆発的利益のひとり勝ちハイテク銘柄
- (長期インフレ対策) 強いブランドと価格転嫁力がある金融以外のパフェット銘柄
- 新興国通貨・コモディティ

[売りたい資産]

- 先進国(日米欧英)通貨
- 不動産市場が上がらず不良債権が減らない国の金融(スペインなど)
- 生産コスト(為替含む)が高止まりし、資金が回らない国(日本など)

(図5) 参考

主要株価指数 (JPYベース)



(終)

02 投資戦略レビュー

今月の資産配分 (2010年12月)

2010年11月は新興国や欧州PIIGSの株価が下落したものの、それを上回る円安のためプラスになりました。予定通り株のネットロングをそれぞれ6割、4割にまで増加させます。

先月(2010年11月)のレビュー

JPY収益	現地通貨	為替	株価指数	
1.65%	-2.35%	4.09%	MSCI ワールド インデックス	
1.28%	-2.70%	4.09%	MSCIエマージング・マーケット・インデックス	
3.85%	-0.23%	4.09%	S & P 500種	
6.17%	6.17%	0.00%	TOPIX (東証株価指数)	ショートしてやられ
7.98%	7.98%	0.00%	日経平均株価	
-1.82%	1.32%	-3.10%	ドイツ DAX指数	
-1.61%	-2.59%	1.00%	FT 100指数	
3.49%	-0.38%	3.89%	香港 ハンセン指数	
-1.40%	-5.33%	4.14%	中国 上海総合指数	
-1.16%	-4.20%	3.17%	ブラジル ボベスパ指数	
-1.81%	-2.58%	0.79%	インド NIFTY指数	
4.76%	0.64%	4.09%	ロシア RTS指数 \$	
2.19%	1.15%	1.03%	韓国総合株価指数	
-0.20%	-1.66%	1.48%	S & P / ASX200指数	
-16.95%	-14.29%	-3.10%	スペイン IBEX35指数	こちらもショートしてよかったあ
6.13%	1.96%	4.09%	GOLD SPOT \$ / OZ	

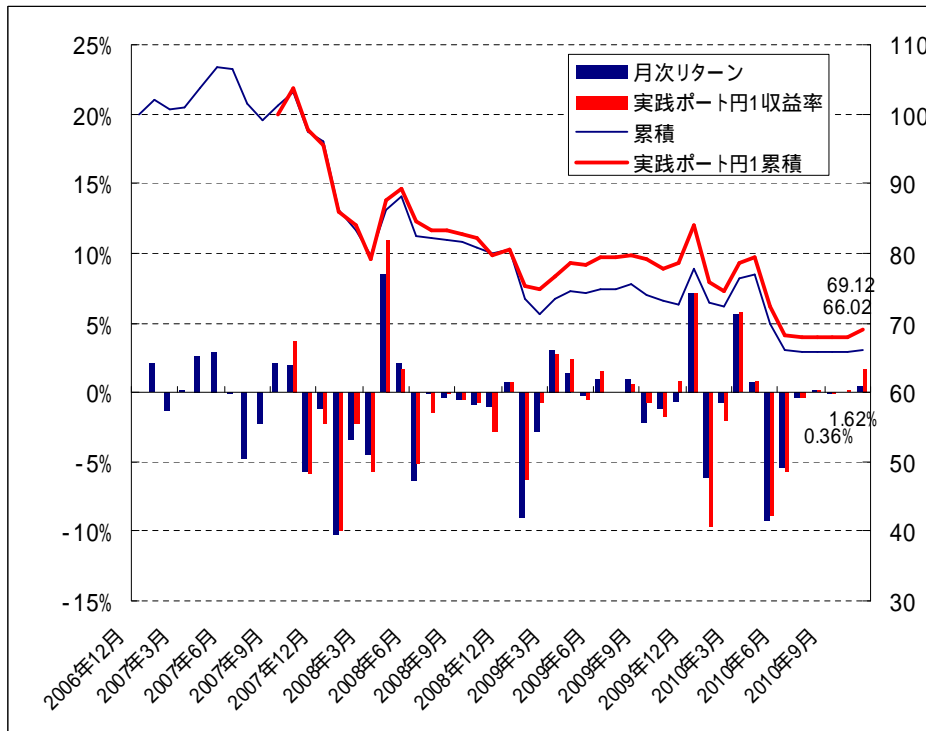
11月の株価は軟調だったものの、円安に助けられてプラスでした。特に日本株は日経平均が+7.98%、TOPIXが+6.17%と好調でした。日本株投資家にとっては久々のウハウハ状態だったことでしょう。

新興国も弱かったのですが、欧州ソブリン問題再燃でスペインなどは-17%でした。個別株ポートフォリオで売っていたことはパフォーマンスに貢献しました。

弱い株はときおり急騰することがありますが、問題を抱えた国やセクターはその反騰を狙って売り増したいと思います。

【投資判断】 日米欧英の通貨は長期的に下落する、そして二極化が進んでバブルが起こるという予測は変わりません。11月を乗り切ったので、株のネットロングを増加させます。買うのはバブル的な上昇が期待できる新興国株と勝ち組ハイテクです。売るのはPIIGSや日本のインデックス、特に金融セクターです。

【先月のパフォーマンス】 弊社モデルポートフォリオは+0.36%のパフォーマンスとなりました（開始来累積-33.98%）。後半で説明する個別株ポートフォリオは+1.62%（開始来累積-30.88%）となりました。ロングショートの効果が出て、取っているリスクの割に良いパフォーマンスと考えています。



Date	月次リターン	累積	株式	債券	現金	為替ヘッジ
2010/1/29	-6.06%	72.96	-6.06%	0.00%	0.00%	0.00%
2010/2/26	-0.85%	72.34	-0.85%	0.00%	0.00%	0.00%
2010/3/31	5.58%	76.38	3.98%	1.60%	0.00%	0.00%
2010/4/30	0.75%	76.95	0.33%	0.42%	0.00%	0.00%
2010/5/31	-9.31%	69.78	-9.32%	0.01%	0.00%	0.00%
2010/6/30	-5.46%	65.97	-5.46%	0.00%	0.00%	0.00%
2010/7/30	-0.37%	65.73	0.00%	-0.38%	0.01%	0.00%
2010/8/31	0.11%	65.80	0.00%	0.10%	0.01%	0.00%
2010/9/30	-0.11%	65.73	0.00%	-0.12%	0.01%	0.00%
2010/10/29	0.08%	65.78	0.07%	0.00%	0.01%	0.00%
2010/11/30	0.36%	66.02	0.36%	0.00%	0.01%	0.00%

比率

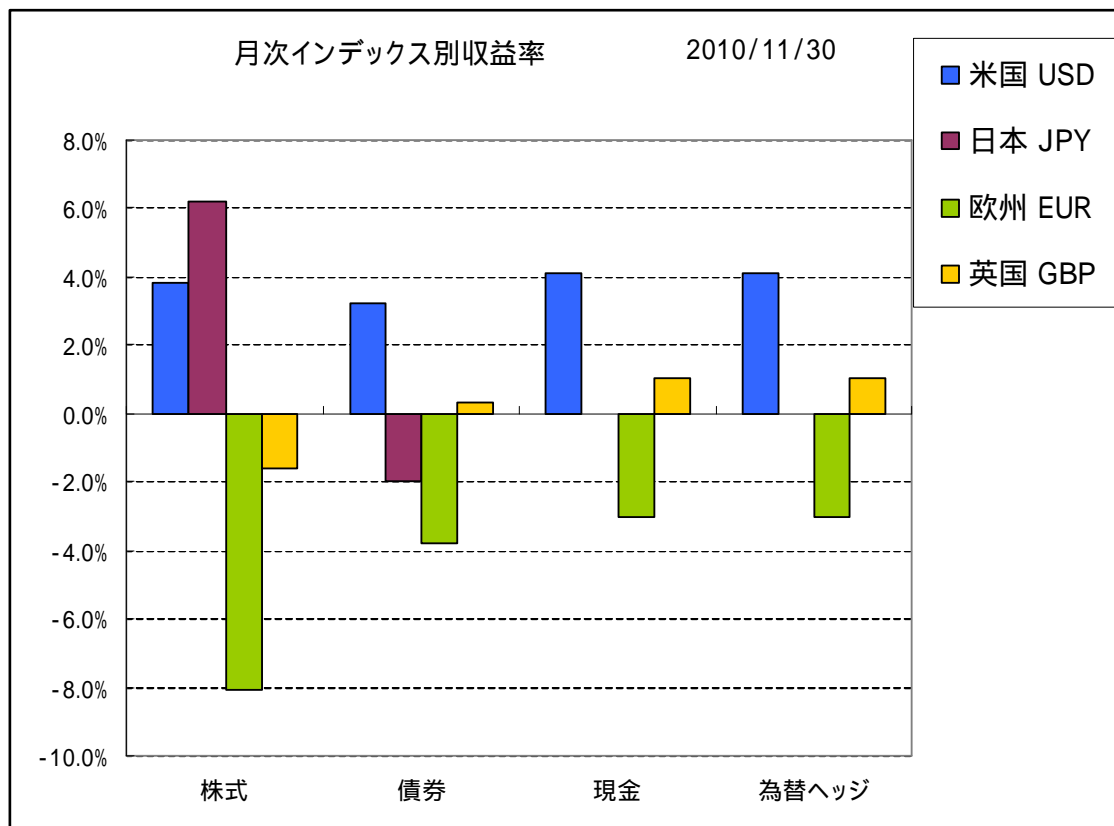
合計 / ModelAlloc		Asset1				総計
Region	CCY	株式	債券	現金	為替ヘッジ	
米国	USD	19.94%	0.00%	0.00%	0.00%	19.94%
日本	JPY	0.00%	0.00%	74.95%	0.00%	74.95%
欧州	EUR	5.10%	0.00%	0.00%	0.00%	5.10%
英国	GBP	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計		25.05%	0.00%	74.95%	0.00%	100.00%

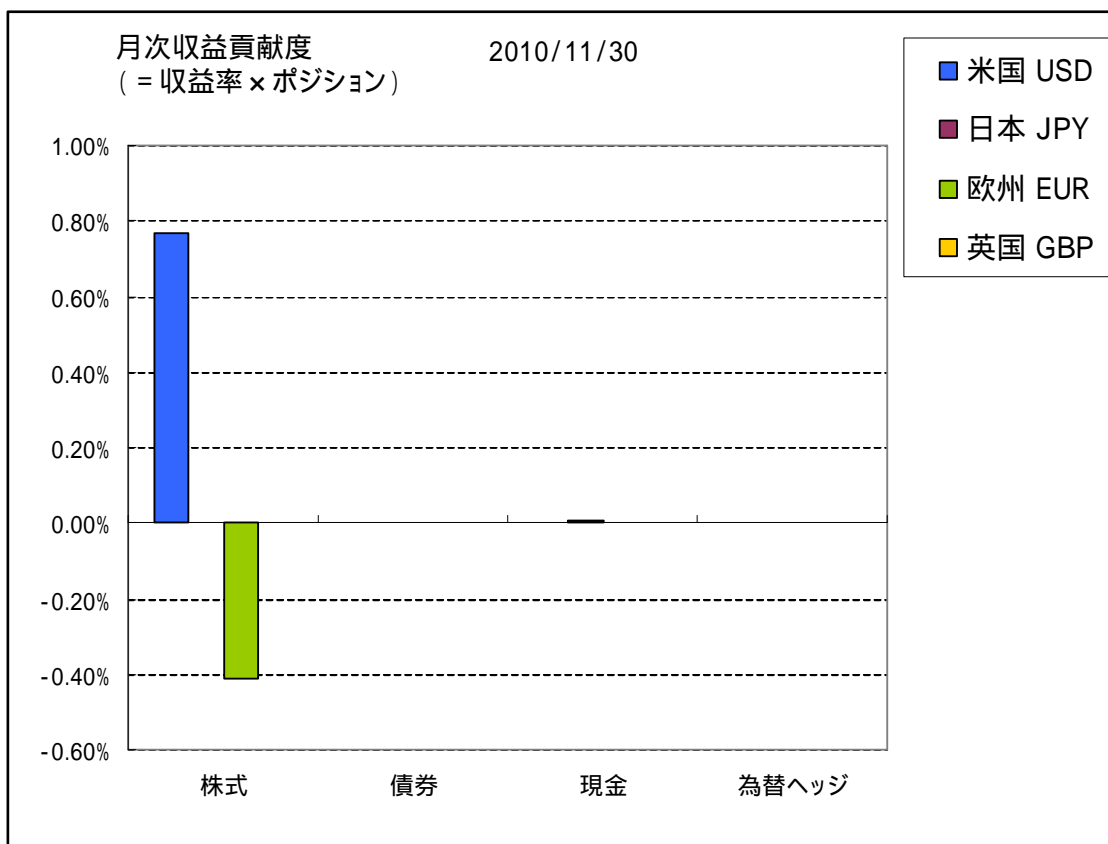
パフォーマンス

合計 / ModelAlloc		Asset1				総計
Region	CCY	株式	債券	現金	為替ヘッジ	
米国	USD	3.85%	3.20%	4.11%	4.10%	
日本	JPY	6.17%	-2.01%	0.01%	0.00%	
欧州	EUR	-8.09%	-3.79%	-3.03%	-3.04%	
英国	GBP	-1.62%	0.33%	1.04%	1.03%	
総計						

貢献度

合計 / ModelAlloc		Asset1				総計
Region	CCY	株式	債券	現金	為替ヘッジ	
米国	USD	0.77%	0.00%	0.00%	0.00%	0.77%
日本	JPY	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%	0.01%
欧州	EUR	-0.41%	0.00%	0.00%	0.00%	-0.41%
英国	GBP	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計		0.36%	0.00%	0.01%	0.00%	0.36%





2010年11月末時点のモデルポートフォリオ (株を25%から65%へ)

予定通り株式を増加させます。60% (米国35%、日本5%、ドイツ10%、英国10%) 円現金40%です。円高は一服したと考えています。

参考ポートフォリオ (円ベース)

2010/11/30

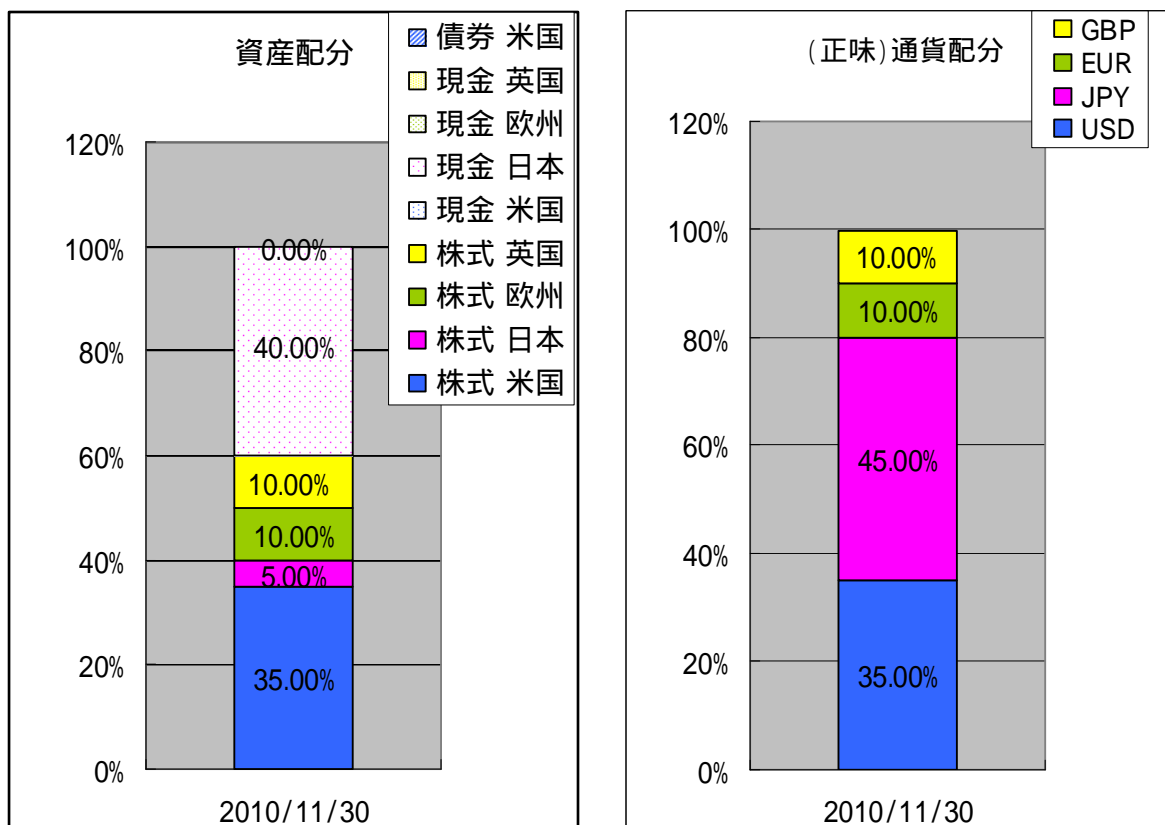
現状資産配分
(ドリフト)



合計 / ModelAlloc		Asset1				総計
Region	CCY	株式	債券	現金	為替ヘッジ	
米国	USD	20.64%	0.00%	0.00%	0.00%	20.64%
日本	JPY	0.00%	0.00%	74.69%	0.00%	74.69%
欧州	EUR	4.67%	0.00%	0.00%	0.00%	4.67%
英国	GBP	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計		25.31%	0.00%	74.69%	0.00%	100.00%

新しい資産配分

合計 / ModelAlloc		Asset1				総計
Region	CCY	株式	債券	現金	為替ヘッジ	
米国	USD	35.00%	0.00%	0.00%	0.00%	35.00%
日本	JPY	5.00%	0.00%	40.00%	0.00%	45.00%
欧州	EUR	10.00%	0.00%	0.00%	0.00%	10.00%
英国	GBP	10.00%	0.00%	0.00%	0.00%	10.00%
総計		60.00%	0.00%	40.00%	0.00%	100.00%



ベンチマーク

	地域	インデックス	ETF の例	ティッカ	ISIN
株式	日本	東証株価指数 TOPIX	TOPIX 連動型 ETF/野村	1306	JP3027630007
	米国	SP500 指数	SPDR トラストシリーズ 1	SPY	US78462F1030
	欧州	ダウ・ユーロ株価指数	Vanguard European ETF*	VGK US	US9220428745
	英国	FT100	i シェアーズ FTSE100	ISF LN	IE0005042456
債券	日本	Bloomberg/EFFAS 国債 インデックス			
	米国		i シェアパークレー7-10y 米債*	IEF	US4642874402
	欧州				
	英国				

*印は厳密にはインデックスに対応していないものの代替可能なETFを示しています

- この戦略を最も有効に使えるのは 401K プランに各国のETFが取り揃えられている場合です。それ以外でも、国際分散投資の目安にいただければ幸いです。
- ファンドの名前はあくまで一例であり、他に適切・有利なものがある場合もあります。見つけ次第ご紹介いたします。
- 先物のことをよく知っていて、税制上の扱いが不利にならない立場であれば、ファンドよりも先物を使ったほうがコストやスリッページの点で有利です。

ETF や個別株を使ったモデルポートフォリオ

個別株ポートフォリオは+1.62% (開始来累積-30.88%) でした。

戦略別にはすべてプラスでした。「長期インフレ対応」はセクター自体がしょぼく**インベブ(ABI BB)が死んだ**ものの円安・コーラ(KO)・マクドナルド(MCD)・ダラーツリー(DLTR)に助けられて+0.35%。「勝ち組ハイテク」はアップル(AAPL)とアマゾン(AMZN)が牽引して+0.37%の貢献でしたが、新興国バブル株はタタモーターズ(TTM US)が2割上がってウハウハの+0.39%。売りヘッジは先月とは逆に日本株と米金融株ETFが踏み上げられたもののスペイン株が17%下落したおかげで+0.51%の貢献でした。

戦略別パフォーマンス

戦略コード	戦略名	配分(初)	配分(末)	時価(初)	時価(末)	配当	金利貸借	総合損益額	貢献度
	合計	100.0%	100.0%	68,013,034	69,117,512	71,388	-5,781	1,104,091	1.62%
0	現金・債券	75.4%	71.2%	51,283,810	49,230,788	0	0	0	0.00%
1	長期インフレ対応(金融以外バフェット)	32.0%	31.7%	21,742,931	21,909,567	71,388	0	238,024	0.35%
2	勝ち組ハイテク	9.0%	20.5%	6,112,425	14,135,871	0	0	253,711	0.37%
3	新興国バブル	10.9%	17.1%	7,424,901	11,808,809	0	0	263,736	0.39%
8	通貨オーバーレイ	0.0%	-9.8%	0	-6,801,905	0	0	0	0.00%
9	株式ショート	-27.3%	-30.6%	-18,551,034	-21,165,618	0	-5,781	348,620	0.51%

今月の変更点

アクセルを踏み込んでネットロング 40 まで行きます。「勝ち組ハイテク」は珍しく日本からカカコム(2371)とダウンゴ(3715)。アメリカからはデータ系の F5 ネットワークス(FFIV)とアクメパケット(APKT)。インドからドクタ・レディー・ラボ(RDY US)とインフォシス(INFY US)を入れます。

ショートはトピックス先物(TPZ0)を 12%買い戻して売り乗せついでに東証銀行株指数(1615)を 17%売り。今月に入って日本株が上がる中でこのETFは1%も上がっていないのでこの入れ替えは今のところ良かったです。ただちょっと流動性が心もとないので、注意して売買したいですね。

あと今更ながらユーロを対ドルで 10%売ります。ちょっとタイミングが遅れたかもしれませんが、行ってみます。

これでポジションはロング 69%、ショート 31%、ネットロング 38%です。通貨オーバーレイが 10%あります。

Trade Date	2010/11/30
------------	------------

合計 / Alloc					
Strategy	Risk Country	blm	Name JIS	CRNCY	集計
2	japan	3715 JP Equity	ダウンゴ	JPY	2.04%
		2371 JP Equity	カカコム	JPY	2.95%
	united states	FFIV US Equity	F5 ネットワークス	USD	2.93%
		APKT US Equity	アクメ・パケット	USD	3.28%
3	india	RDY US Equity	ドクタ・レディー・ラボラトリーズ	USD	2.96%
		INFY US Equity	インフォシス・テクノロジーズ	USD	2.98%
9	japan	TPZ0 Index	TSE TOPIX (Tokyo Price Index)	JPY	12.36%
		1615 JP Equity	東証銀行業株価指数連動型上場	JPY	-16.99%
	spain	IDZ0 Index	MEFF Madrid IBEX 35 Mini Ind	EUR	8.67%
		IDF1 Index	MEFF Madrid IBEX 35 Mini Ind	EUR	-8.60%
8	united states	EEH1 Curncy	CME E - Mini EUR / USD Euro C	USD	-9.80%
総計					2.78%

銘柄別配分・貢献度など

合計 / Alloc Strategy / Asset / Risk	Country	Name / JIS	集計	株数(初)	売買	株数(末)	時価(初)	時価(末)	配分(末)	配分(初)	配分(末)	配分(初)	金貸借	総合貢献度	収益率	現地R	為替R
0	Cash		70.72%	51,148,175	#####	49,077,746	67,877,398	69,248,579	71.388	75.35%	70.87%	75.35%	-5,781	1,388,655	2.04%	0.00%	0.00%
1	Equity	JPY Cumcv	0.00%	0	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		CU US Equity	0.00%	0	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		CU US Equity	4.88%	650	0	650	3,331,052	3,367,811	29,375	4.91%	4.86%	4.91%	0	66,134	0.10%	1.99%	-2.87%
		JUNJ US Equity	3.78%	1,038	0	1,038	2,693,099	2,622,612	29,375	3.97%	3.79%	3.97%	0	-70,487	-0.42%	-6.45%	4.09%
		KFT US Equity	5.27%	689	0	689	3,396,858	3,655,220	25,371	5.00%	5.28%	5.00%	0	283,733	0.42%	8.35%	3.38%
		KO US Equity	3.08%	326	0	326	2,098,383	2,135,163	16,642	3.00%	3.08%	3.00%	0	113,422	0.17%	5.56%	0.63%
		MCD US Equity	1.97%	668	0	668	1,365,103	1,365,757	0	2.01%	1.97%	2.01%	0	654	0.00%	0.05%	-3.89%
		MO US Equity	5.03%	672	0	672	3,434,611	3,494,171	0	5.06%	5.05%	5.06%	0	59,561	0.09%	1.73%	-2.27%
		PG US Equity	0.00%	0	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		HEIA NA Equity	4.54%	684	0	684	3,454,165	3,151,904	0	5.09%	4.55%	5.09%	0	-302,261	-0.45%	-8.75%	-5.83%
		ABI BB Equity	2.04%	0	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		3715 JP Equity	2.95%	9	9	9	1,414,800	1,414,800	0	2.04%	2.04%	2.04%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		2371 JP Equity	3.29%	5	5	5	2,045,000	2,045,000	0	3.03%	3.26%	3.03%	0	197,205	0.29%	9.59%	5.28%
		AAPL US Equity	3.31%	85	0	85	2,056,897	2,254,102	0	2.99%	3.32%	2.99%	0	265,765	0.39%	13.08%	8.63%
		AMZN US Equity	3.27%	153	0	153	2,032,527	2,298,292	0	2.99%	3.32%	2.99%	0	242,404	0.36%	11.94%	7.54%
		DLTR US Equity	2.88%	492	0	492	2,029,659	2,272,063	0	2.99%	2.88%	2.99%	0	-25,612	-0.04%	-1.27%	-5.15%
		GOOG US Equity	2.93%	41	0	41	2,023,001	1,997,388	0	2.98%	2.93%	2.98%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		FRV US Equity	3.28%	184	184	184	2,030,815	2,030,815	0	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		APKT US Equity	1.94%	556	556	556	2,279,120	2,279,120	0	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		ITUB US Equity	2.09%	688	0	688	1,358,541	1,348,494	0	2.00%	1.95%	2.00%	0	-10,048	-0.01%	-0.74%	-4.64%
		VALE US Equity	1.73%	526	0	526	1,359,213	1,420,116	0	2.00%	2.05%	2.00%	0	60,902	0.09%	4.48%	0.37%
		SBID LI Equity	2.65%	114	0	114	1,264,853	1,200,215	0	1.86%	1.73%	1.86%	0	-64,638	-0.10%	-5.11%	-8.84%
		TTM US Equity	2.96%	634	0	634	1,433,378	1,836,919	0	2.11%	2.65%	2.11%	0	403,541	0.59%	28.15%	23.12%
		RDY US Equity	2.98%	0	630	630	0	2,055,209	0	0.00%	2.97%	0.00%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		INFY US Equity	2.98%	0	373	373	0	2,064,963	0	0.00%	2.98%	0.00%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		IDX US Equity	9.80%	281	0	281	2,008,916	2,040,325	0	2.96%	-9.82%	2.96%	0	31,409	0.05%	1.56%	-2.43%
		EEH1 Cumcv	-0.21%	-1	-1	-1	-8,060,000	-145,000	0	-11.87%	-0.21%	-11.87%	0	-665,000	-0.98%	-6.25%	-8.25%
		TP20 Index	-16.99%	-1	-1	-1	-99,900	-11,788,200	0	-17.02%	-17.02%	-17.02%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		1615 JP Equity	0.00%	0	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		ID20 Index	-0.07%	-6	-6	-6	-7,193,613	-48,243	0	-10.60%	-0.07%	-10.60%	0	936,206	1.38%	13.01%	13.01%
		IDF1 Index	-8.60%	0	0	0	-5,968,404	-5,968,404	0	0.00%	-8.62%	0.00%	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
		XLF US Equity	-4.94%	-2,817	-2,817	-2,817	-3,297,421	-3,427,874	0	-4.86%	-4.95%	-4.86%	-5,781	-1,362,233	-0.20%	-4.13%	-4.09%
			99.78%														

03 「リートの検証」と「ソフトバンクが熱い」

ジョー爺

「リート検証」先月レポートの検証

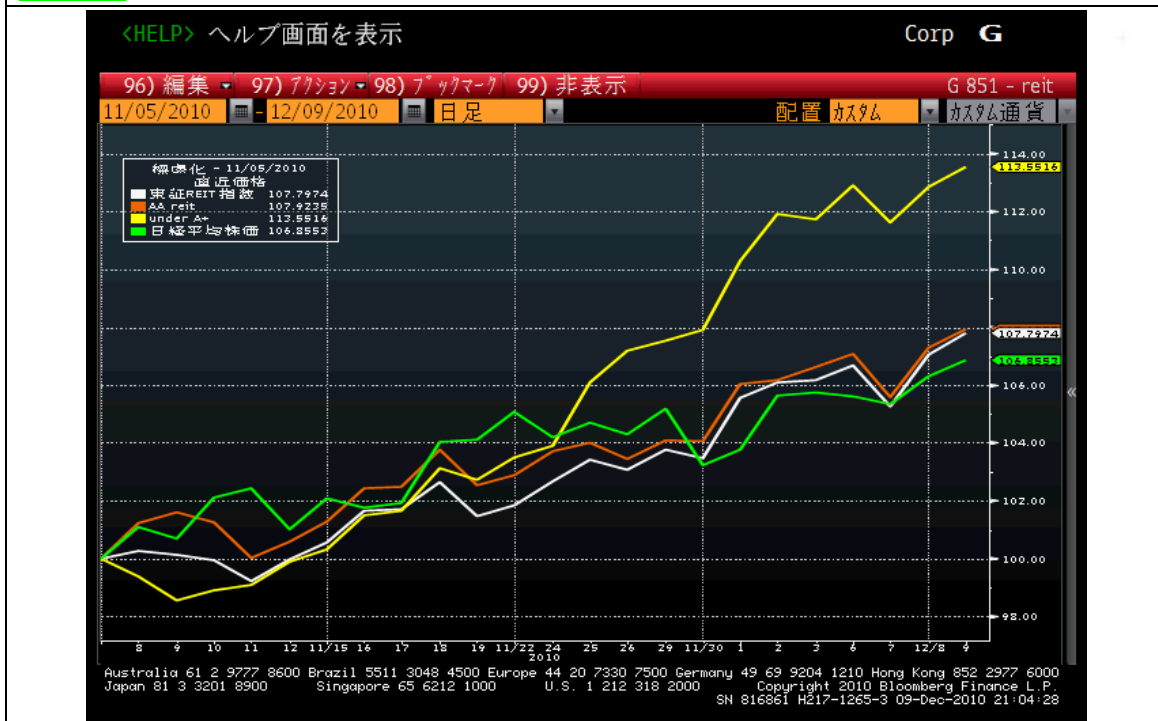
検証、11月5日日銀がAA格以上のリート15銘柄につき約500億円を時価総額基準で按分。これを受けリート市場はどのような動きになったか検証してみました。

11月5日から12月03日、現在までのパフォーマンスは東証リート指数6.18%、AA以上(15銘柄)バスケット6.48%、それ以外の銘柄20銘柄バスケット11.29%。(指数は時価総額加重。バスケットは株価単純平均)日銀購入以外の銘柄が大きく上昇しました。(図1)当初はAA銘柄バスケットが買われ、それ以外の銘柄がアンダーパフォームしていましたが、リート投信の設定か割安に放置されていた銘柄が急騰。(東京海上がJ-REIT投信を設定)この間の上昇率は、ジャパン・オフィス投資法人+33.00%、FCレジデンシャル投資法人+21.79%、積水ハウス・SI投資法人+21.21%、日本賃貸住宅投資法人+20.94%、上位10銘柄で4社のパフォーマンスが20%を上回る驚異的な数字となりました。また、上位10社中、AA以上の銘柄はグローバル・ワンの+17.59%のみでした。

(図1) REIT 価格比較

(出所: Bloomberg)

日銀の購入対象以外銘柄のバスケット、日銀の購入対象銘柄バスケット 白 = 東証リート指数、日経平均 (11月5日100%から12月9日)



そもそも、東証リート指数の配当利回りは12月3日時点で5.23%と10年国債の1.215%を4.0%以上も

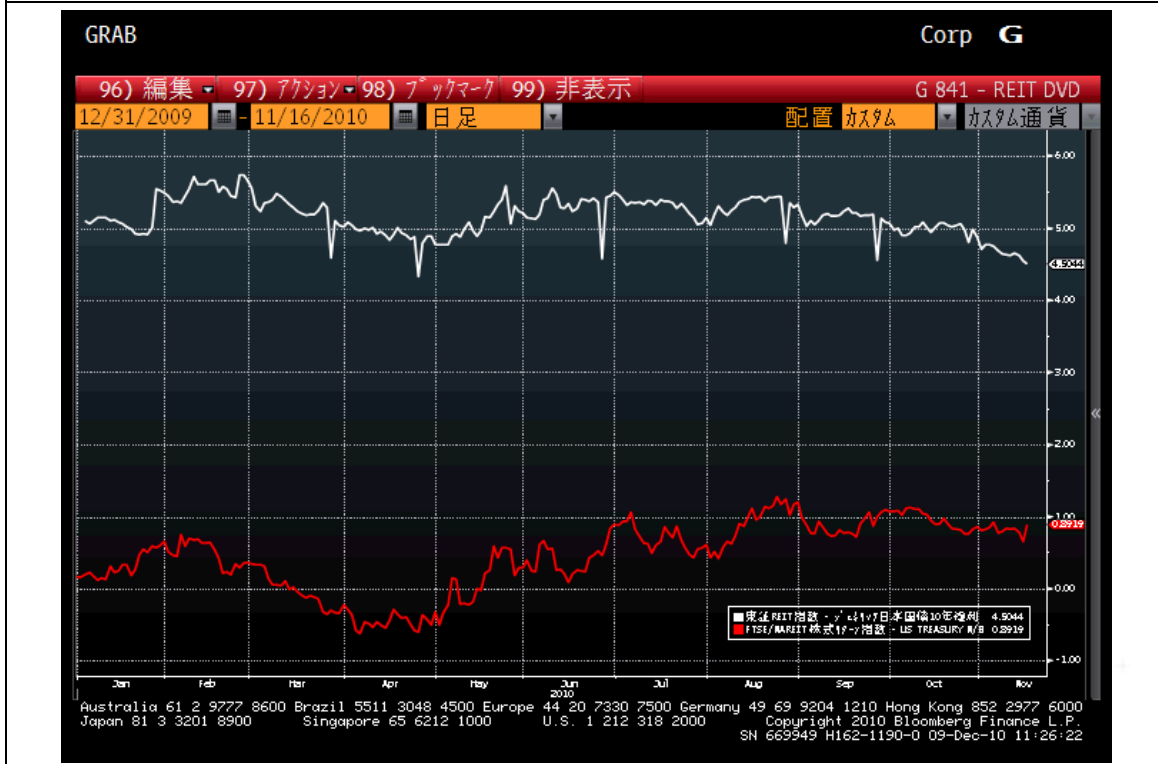
上回っています。米国のリート指数は 3.68%、10 年国債利回りが 3.00%、国債に対するスプレッドは 0.68%。日本の利回りの高さが目立ちます。(図 2) 日本のリートはまだまだ割安と言えます。また、日銀のお墨付きもあります。12 月中旬から徐々に日銀によるリート買入が始まります。今後は AA 軍団の動きには注目です。これからもリートからは目が離せないでしょう。ただし、日本のリスクとして地震が挙げられます。全資産を J-REIT に投資するということは止めておきましょう。リークの配当原資はあくまで賃貸収入がメインです。

(図 2) 日米リート 国債とのスプレッド

(出所: Bloomberg)

白 = 東証リート指数配当利回り - 10 年国債金利

米国リート指数配当利回り - 10 年米国債金利

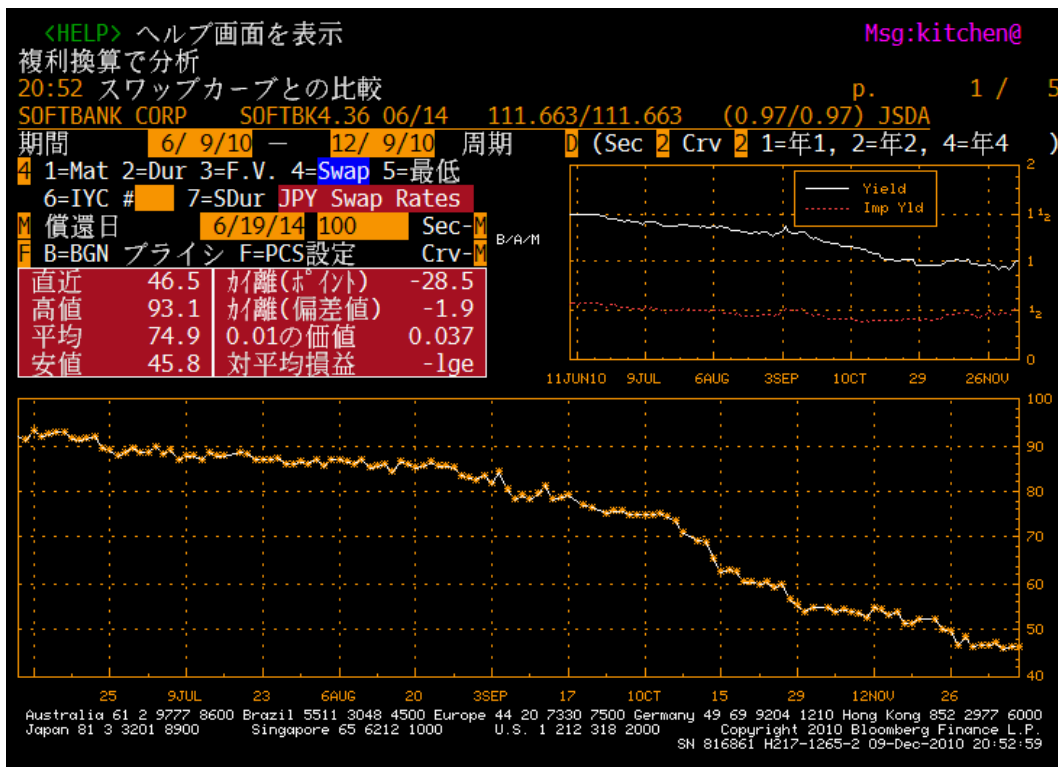


ちなみに先月、“藤井レシオ”で出遅れであった 3 銘柄、日本プライムリアルティは 11.05%、フロンティア不動産投資法人 9.85%、日本ロジスティクスファンド 8.07% という成績で AA バスケットをいずれもオーバーパフォームしました。(パチパチ)

「ソフトバンクが熱い」

ところで、今回は最近気になっている銘柄があるのでそれについて書きます。私がお金があったら購入したいのですが、残念ながら私はちっぽけなサラリーマン。

最近、債券流通市場で、BBB 銘柄やいままで不人気だった事業債のクレジットスプレッドが縮小しています。この恩恵を受けている銘柄の一つにソフトバンクが上げられます。ソフトバンク (BBB+) の残存 3.5 年の 26 回債のスワップに対するスプレッドは 8 月末には 0.83% 9 月末 0.75% 10 月末 0.54% 12 月 03 日 0.46% と 3 カ月で 0.37% 低下しています。



(出所：Bloomberg)

ソフトバンクの社債は機関投資家にはあまり人気がありません。BBB+ という事もあり社債で資金を調達する時は、高いコストを支払っていました。それが今回の社債スプレッドの低下と株価上昇という順風が一気にソフトバンクの財務体質を救うかもしれません。現在、ソフトバンクの借り入れコストは単純計算から 4.3% (支払い利息 ÷ (長短借入金))、レバレッジは 3.6 倍と高水準。ソフトバンクの課題の 1 つにレバレッジの低下があります。レバレッジが高いと市場金利に業績が左右され、企業のコントロールがしにくくなります。営業利益率が 16.8% と高水準を維持しているのでまだ問題ではないですが、利益率が低下すると ROE の低下要因となります。社債市場のスプレッドの縮小は借入金利の低下につながります。

現在ソフトバンクが発行している社債は 12 銘柄、5480 億円。その内、ユーロ円 CB を 2 銘柄発行しています。この CB が今後のソフトバンクの評価を決めるキーとなります。

まずここで CB について簡単におさらいをしましょう。CB とは債券の種類です。普通の債券と違う点は、ある特定価格 (行使価格) で新株と交換できます。例えば、ある会社が CB 100 億円、行使価格 1 万円と仮定すると (100 億円 ÷ 1 万円) 100 万株の株式に転換されます。行使価格が 1 万円なので株価がそれ以上になれば CB はやがて株式に転換されます。株価への影響は CB が株式に転換されることで発行済株式数が増えます。株式数が増えると 1 株当たりの利益が減少して株式が下落します。(企業の成長が止まっている場合) CB が発行され、その CB が全額株式に転換されたら何株になるか? これを潜在株式数といいます。

また、CB にはソフトコール条項というものが付いているものがあります。これは発行企業の権利で、CB の転換を後押する為の仕組みです。たとえば、東証の引け値が 30 営業日継続して行使価格の 1.5 倍の水準以上で推移していた場合、発行体は額面で買い戻すことができるという内容です。行使価格の 1.5 倍ということは CB 価格が 150 円以上の状態です。それを発行企業が 100 円で買い戻すことがで

きるというものです。CB を保有している投資家はソフトコールが発生する前に CB から株式への転換を
始めます。

なぜか？それはまずこれらの CB の概要を見てください。

ソフトバンク ユーロ円 CB

償還日	クーポン	転換価格 (円)	発行金額 (億円)	ソフトコール
2013年3月末	1.5%	2164.5	500	3246.75 円
2014年3月末	1.75%	1984.3	500	2976.45 円

CB は株式へ転換することが出来る権利が付いた社債なので普通の社債よりもクーポンが抑えられま
す。一般的にはクーポンは0%、0.5%です。ソフトバンクの場合は高いクーポンが付いています。社債
で CB と同じ期間のクーポンは、1%を切る水準です。ソフトバンクの本音はこの高い利息をなんとかし
たいと思っています。

ソフトバンクの株価は9日現在 2998 円です。2014年償還のCBのソフトコール価格を上回っています。
この状態が30営業続くとソフトバンクはこのCBを額面で買い戻すという宣言をします。今、CB価格は
150円を上回っています。これを100円で償還ということは額面100円につき50円の損を被ることにな
ります。投資家はコールがかかる前のCBを売却するか株式に転換します。つまり、CBから株式への
転換が始まります。



(出所：Bloomberg)

白線がCBの理論価格推移、赤がCB価格推移です。赤線が白線の上にある場合はCBから株式への転換は起きていません。ただ、線の差(緑線)がどんどん小さくなっています。この差がゼロ、もしくは逆転した時、CBから株式への転換が始まります。一般のCBの場合はCBが株式に転換されると発行済株式数が増えるために株価の上値が抑えられます。

需給で株価は一時的に抑えられるかもしれませんが、ソフトバンクの場合は、高い金利を払う必要はなくなります。また、CBの場合は転換されたCBがそのまま自己資本に移動します。これはCBが株式に転換されると企業は現金をCBの投資家に返却する必要がなくなります。借金棒引きと似ています。

ソフトバンクの課題の一つにレバレッジの低下があがられます。これは借金を減らすか、自己資本を厚くするか、それとも両方か？ CBが株式に転換されるということは借金が自己資本に移動するということです。ソフトバンクはCBの早期転換を望んでいます。CB投資家もコールを恐れ転換も徐々に始まっています。まだ、ソフトコールの条件は整ってませんが、早くて来年1月中の可能性です。

ただし、ソフトコール条件が満たされたとき行使するかしないかはソフトバンク次第です。コールを行使することは高い利息を払う必要がなくなるということで株主にとってプラスです。ただ、コール掛を行使できる条件にもかかわらず行使しなかった場合（ないと思いますが）、株価は残念ながら・・・

9984 が面白い。

データ：Bloomberg、日本証券業協会、野村インターナショナル

ジョー爺のひとりごと

私は宇宙戦艦ヤマトが好きで、テンションを上げるために仕事を5時に切り上げ観に行きました。映画の限界を感じてしまいテンションが下がってしまいました。波動砲は安売りしすぎ、森雪はこんなじゃない！（個人的には強い女性は好きです）感動の場面はアナライザーが犠牲になる場面だけ。映画に入りきることができませんでした。CGと実写の壁が見えてしまいました。

あしたのジョーも実写に期待しております。

そういえば、ジョー爺バンドの次のコンサートが決まりました。

2月11日 大塚のライブハウス WELCOMEBACKです。



ジョー爺

学生時代から株式投資をはじめ、証券会社の商品部で債券、デリバティブの運用、プライシングを担当。その後、外資系情報ベンダーに転職後、やめときゃいいのにメガバンク系投資銀行に転職。そこから転がりだし現在にいたる。今は切磋琢磨し上昇の機会を模索している。

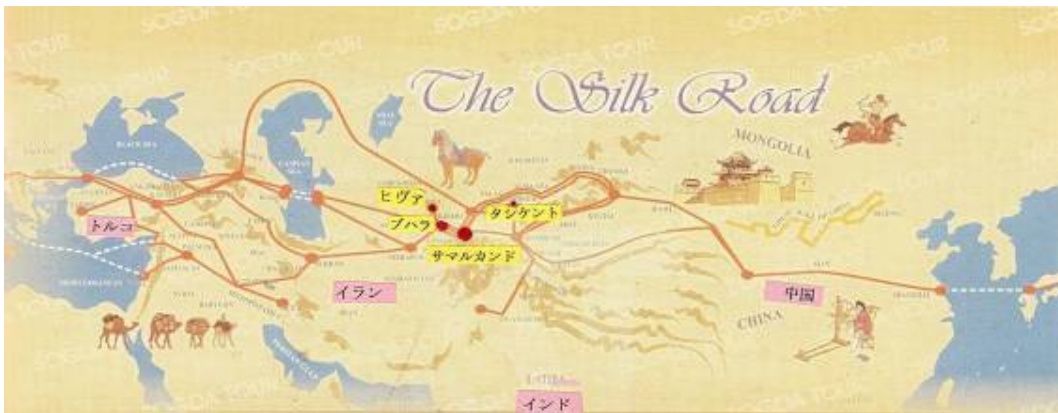
04 ワールドレポート(欧州パリより) ＝ エッフェルタワー通信

小幡 佳

「絹の道」を走る - ウズベキスタン紀行 -

南仏の象徴が海に広がる紺碧の青だとすれば、古(いにしえ)の「絹の道」のサマルカンドのそれは天から降りかかって来るような紺碧の青だ。一方は古代ギリシアの神々が光と色を混ぜ合わせて練り合わせた青、他方は古の天の神が空いっぱい降り下ろす神秘的な青。

いつか夢見た“サマルカンド”に行けると云うツアーが舞い込んで来たので早速申し込んだ。教員をしていた女房のお陰で、フランスの教職員関係者対象の割安ツアーに参加する機会を得て、中央アジアのウズベキスタン行ったのが2年前。ウズベキスタン旅行日記でも書いて見ようと思いながら、つい写真集だけに終わっていたところに、先日我が家に、中央アジアの古都“ブハラ”、かつて中央アジア一帯のイスラム世界全体の文化中心地としてその栄華を誇った街からやって来たミニアチュア・アーティスト夫婦が訪ねて来たのを機会に、想い出のウズベキスタン紀行なるものを書いて見る事にした。



「絹の道」を走る

“「絹の道」を走る!”と云っても、実はこれはややインチキな表現で、かつて「絹の道」と云われた道は、今はラクダや羊の群れが通る砂漠やステップ地帯を途切れ途切れに走っている程度の道で、我々の様な一般の観光客がそんな道を走ったり出来る訳ではない。ただ、そんな古の絹の道の脇を通る自動車道路、それは道路補修が余りされていないせいか、車がガタコト音を立てながら走る部分も多く、先進国に住む人達が想像する様なハイウェイと云うものではない、そんな道を走りながら、近くに通っていたと云うかつての「絹の道」を想像しながらバスに揺られながら走ると云うのが真相である。しかしながら、ツアーガイドの昔話を聞きながら、かつて「絹の道」を旅した古の人達の様子を夢うつつに浮かべながらバスに揺られて行くのもなかなか良いものだ。

両親がロシア系だと云うガイドのタチアナ嬢は、その丁寧かつ正確なフランス語でツアーメンバーの大部分を占める先生方達を驚かせていた。「絹の道」バス道中に彼女が「絹」の起源とそのエピソードを説明して呉れた。

“むかし、むかし中国は紀元前五千年も前の話、皇帝のお妃が、飲んでいたお茶碗に自分が桑の木の下で拾って来た白い蚕の繭（まゆ）を落としてしまった。慌てて拾い上げて手に取ったら指の間から白い糸が垂れてしまった。何も知らず彼女は纏れてもじゃもじゃになった白い糸をほぐして行った、……。こんなきっかけで発見された白い糸は、時間が経ってローマ人によって「絹、sericum(ラテン語)」と名付けられたが、中国は絹の製法を多民族に明かした者に死刑の罰をもって秘密を守り続けた。こんな絹が外の世界に輸出される様になるのは、前漢の皇帝が西域に遣わした張騫ミッション（紀元 138 年）を待たねばならなかった。数度に亘る張騫の西域使節は、当初未知であった西域を視察すると云うものから、やがてフェルガナ盆地（現在のウズベキスタン東方）で聞こえ高かった「天馬」、即ち最高品種の馬で、戦い馬として素晴らしい馬を求めると云う使命と変わって行ったが、この張騫ミッションがきっかけで東西の交流が始まり、後世の「絹の道」の先駆となった”。

我々ツアーが走ったウズベキスタンの「絹の道」は、同国西方にある世界遺産にも登録されている古都ヒヴァを起点に東方に走り、やはり世界遺産のブハラに至る約五百キロの行程。京都 東京間の距離だが、朝早く発って夕方着くと云うバスの長旅。ヒヴァを離れて暫く走るともう人家も無く、ただ広い不毛作地帯となり、そのうちにステップ、砂漠地帯が目に入って来る。トルクメニスタンとの国境を成すように走っている大きいアムダルヤ河沿いに走る。我々が走っている道路から程遠くないところを昔の「絹の道」が走っており、時々それらしきものが見えるとガイドが指さして呉れる。そんな道をカメラで撮ると云う事も出来なくただ、遠くから僅かに垣間見た道を、皆それぞれ勝手に頭の中で自身の「絹の道」のイメージを浮かべながら想像の世界に入って密かに楽しんでいる。



古の「絹の道」の脇を走る現在の自動車道路 「絹の道」途中で故障したバスのエンジンの修理

京都 - 東京間の距離を時々バスが止まって呉れるが、途中茶屋とかカフェの様なものが殆どない。一番困るのは女性の人達のトイレで、何か小屋の様なものがあるものの、余りもの不潔さの為、外の自然の「要塞」を見つけて処理しなければならない。ウズベキスタンでも東半分の地域はそこそこ大きな街々がそんなに遠く無い間隔で繋がっているのだが、西方地域、特に我がツアーが走った五百キロ間は厳しい。漸く食事を取れる茶屋一軒で休憩した時は皆安堵の気持ちになって、はしゃいだものだ。

やはり、こんな国はなんと云っても水が大切なのだ。上下水道施設などはこんな田舎には無く、「井戸」が生活の綱となっている。井戸がある処に部落があると云うところだ。

水の話になると、以前アルジェリアのプラント現場で仕事した事も思い出される。朝はコップ一杯の

水で歯を磨き、髭を剃り顔を洗う。夜中にしか水供給が無い水道は、真夜中に起きてバスタブに翌日に必要な水をためておく。ホテルなどは皆がそうするからまた、朝には水が出なくなってしまうと云う具合。ソ連崩壊二十年後のウズベキスタンを独立後間もないころのアルジェリアの状況と比較しながら観察したものだ。しかし、此处は偉大なる中央アジアの文化が有ることはさすがにアフリカ諸国等とは比較にならないと云う事は、旅の日数を重ねているうちに解かって来る。



「絹の道」途中のチャイハナ（茶屋）四角いベッドの様な“座敷”に上ってくつろぐ

さて、敢えて「茶屋」と云ったのは、中央アジアは、実はお茶文化で「チャイハナ」と云われるお茶を飲みながら休憩したり駄弁ったりする「茶屋」がいたるところにある。我々ツアーが途中休憩したのもこのチャイハナであるが、そこでは、緑茶も紅茶と同じくらいに一般的になっており、アラブの国の「カフェ文化」国との違いである。日本人にとってはこれが随分と有難い。

こんな「絹の道」道路のチャイハナで休憩したが、様々な旅の人達が皆ここで一休みしている。大型貨物トラックの脇で簡易式食卓テーブルを出して食事している二人に話しかけて聞いたら、彼等はトルコから来て貨物を中国にまで運んでいる途中だと云う。一週間位の行程らしい。更に、チャイハナの脇で必死になってエンジンを解体している二人がいたので、路上ガレージ（修理場）かなと思って近づいて見た。ガレージではなく、自分達の長距離トラックが故障したので修理しているところだと云う。後で我がツアーのバス運転手に聞いたら、まだ以前の古いロシア製の車が走っているので、そんな車の運転手は皆修理工を兼ねているようなものだと言いながら説明して呉れた。そういう我々のツアーのバスは中国製で比較的新しく、故障などは余り無いよと云って、自分はこんな新しいバスの運転手なんだ、

と自慢しているように見えた。日本の車は？と云うと、手の親指を上げて「すばらしい！」という。話を聞くとウズベキスタンにはイズズの組み立て工場が有り、マイクロバスや、警察車等を製作していると言う。他の日本製乗用車も輸入品の高級車として入っているが、普及品は韓国車の様だ。要はバスでは高級品がドイツ製で普及品が中国、乗用車では高級品は主にドイツや日本製で普及品が韓国と云う事らしい。



刈り入れが終わった後の綿畑。綿の木一本寂しく残っていた。

ウズベキスタンは世界第二位の綿産地

「絹の道」バスは途中所々で止まって呉れ、砂漠の様子、国境のアムダヤ河、土地の人達の土葬お墓群、収穫が終わった後の綿畑等々と随分と様々な物を見た様な気がする。

つい「絹の道」の話が先行してしまっただが、我々のツアーはウズベキスタンに着くやいきなり「絹の道」を走った訳ではない。パリからのウズベキスタン・エアラインで先ずは首都のタシケントに到着。半日ぐらいのタシケント見学の後、五十人乗りの旧ソ連製プロペラ機で一気に西方の古都ヒヴァに飛んでそこで二泊。その後「絹の道」沿いをバスで走り、やはり古の都ブハラに着きそこでも二泊した後サマルカンド経由、またタシケントに着いて帰りはロンドン経由パリと云う全行程七泊八日の旅であった。

城壁の古都ヒヴァ

ヒヴァの城壁内の町に入ると時代錯誤でもしてしまったかのような錯覚を覚える。見慣れてしまった感のあるヨーロッパの中世の趣を残す古い町とは全く違う、別の中世の町が目の前に展開する。今回の旅行では敢えてガイドブックも読まず全く予備知識なしで来たこともあって、先ず目の前に展開する諸々の遺跡風の建物が何なのか理解するのに暫くの時間を要した。ガイド、タチアナ嬢の説明を聞いて漸くそれらは、メドレセと云うイスラムの神学校や、ミナレット（寺院の尖塔）である事が理解出来た。黄土色が基調となっている建物にカラフルなタイルがモザイク状に貼り付けられているように装飾が施されているが、特に青のタイル模様が見事な感じがする。「碧い空に、青いモザイク」の調和が堪らないくらいに見事。中世風の町を一通り巡回見学した後はバザール（市場）に行く。ここには近辺の小村や部落から人が集まると見えてごった返している。この町は昔中央アジア一帯でも有名な奴隷市場があったところで、その入り口門は「奴隷の門」と呼ばれている。町を行き交う人々、すれ違う人々は皆穏やかな表情をしており、安心感が漂っている。スリ、盗難等の事故は滅多にないそうだ。



ヒヴァの青い空、ミナレ（モスク尖塔）、ラクダ



古都ヒヴァ、ユネスコ世界遺産に登録。

夜が更けて皆が食事後ホテルに帰った後一人で外に出て見た。昼は太陽に照らされた紺碧の青空であったものが、今は、月の光が限りなく奥深い空の闇の彼方で消滅し、なおも永遠に続く夜の空、そこは神の領域だと思った。

ヒヴァは「太陽の国」の意を持つホレズムと云う地域にある。10 - 14 世紀に栄えたホレズム帝国だが、実はこの地帯はアマダリア河の肥沃なデルタ地帯で 4 , 5 千年前から農耕文化があったと云う。

聖なる「僧院」ブハラはまた商人の街、

ヒヴァから「絹の道」を五百キロ走って着いたのがブハラ。サンスクリット語で「僧院」を意味するらしい。今日人口四十万人の大きな街、かつてはイスラム世界全体の文化的中心地として栄えたと云う。黄金時代は 9 世紀でやがて、1220 年のジンギスカンの来襲で街は壊滅。その後の繁栄は 16 世紀のシャイバニ朝時代まで待たねばならなかった。さすがに「僧院」と呼ばれ程、多くのモスクや神学校（メドレセ）が競い合うように建っている。ガイド、タチアナ嬢の説明は詳しく、かなり専門的な知識を身に付けているらしく、筆者などは言葉のハンディもあって全部理解できなかったが、タチアナ嬢が説明する内容には余りにも詳細説明が多いので付いて行けないと告白する“先生方”も多かった。我々のツア

ーは20人ぐらいのグループであったが、道中お互いに打ち解けて話し合う様になって解かったことは、中・高等学校の先生（OB）が多く大学の教授も交じっており、ツアーメンバーの知的レベルは高い人達であると云う事だ。そんな人達からガイドの説明に付いて行けないと云う告白を聞いて筆者もずっと身が軽くなった様な気がしたものだ。

数多くの名所、名跡を案内して貰って遺跡の食傷気味になっていた皆の要求で、翌日の午後の半日は予定変更で自由行動、即ちショッピング時間としてもらった。昼食後、今まで真面目顔で通して来た大学の先生を始め、皆急に楽しそうな顔になって三々五々に散って行ってしまった。

ウズベキスタンで有名なのは「スザニ」と呼ばれる「刺繍を施した布」だが、様々な装飾が有って見るだけでも楽しい。ツアーの中でも“先生顔の能面”もすっかり取り去って、スザニの店で懸命に値切りながら買い物していた女性達の様子が面白かった。ベッドカバーやテーブルクロス等用途は広く、嫁入り道具の一つとして様々なデザイン、刺繍されたスザニが必ず入っていると云う。各家庭で普通に使われていたスザニが注目され始めたのは、ソ連が崩壊して欧米人が中央アジア各地に旅行する様になってからだと云う。やがて買占めする業者も出て来るに至って、政府は大量のスザニの流出を防ぐ為に50年以上の年代物スザニの国外輸出を禁止しているとのこと。

更に後で解かったことだが、スザニはジブシー等の流浪の旅人達が扱っていたものだが、次第に地元の商人たちがその商売に入って来たと云う経緯があるらしい。そういえば、ブリュッセルの観光中心地でスザニらしきクロスを売っている流浪民の女性を見かけた。現代の我々は、そんなジブシーの商売領域まで侵してしまっているのか！と思うと、今欧州で窃盗などの犯罪の温床とされているジブシーに対する同情感が急に込み上がって来る。



ガイド、タチアナ嬢。何でもスゴク詳しいプロガイド



ミニチュアの店の夫婦（中央は筆者の妻）、
主人はミニチュア画家4代目

「絹の道」の道中画。「東海道五十三次」の様

ブハラで楽しめるショッピングでもう一つ面白いのはミニチュアである。色彩豊かにこまごまと書かれた絵は、値段も手ごろ（と云っても結構高いが）で2-3枚買ってしまう事になる。後でグループのメンバーに聞いたら大概の人が気に行った模様のミニチュアを1-2枚は買ってあり、皆自分の選んだ絵を見せ合いっこしながら自慢している。

絵の好きな女房にせがまれてミニチュアの店を数軒覗いた。たまたま入った店の主人が結構フランス語も出来るので話し込んでいるうちに、いろいろな事を教えてくれた。ミニチュアの描かれる紙は特殊で、桑の木の樹皮が原料だと云う。紙の質も色々だが店の主人は、昔からやっているある伝統の

製紙屋さんに行って仕入れて来るそうだ。

ミニアチュア絵の他に人物画や水彩画等もたくさん置いてある。また綺麗な模様を織りなした小箱類がたくさんあるので聞いて見たら、「紙粘土」で作った小箱に色彩豊かな絵を描き、その上でニス塗りするがそれを全部で7回やるそうだ。この紙粘土小箱の紙の質が大切で店の主人はある秘密の場所に行って仕入れて来るのだと云っていた。聞けば一家全員がアーティストで主人の家は昔ながらのミニアチュアリスト一家で4代目だと言う。奥さんも芸術家一家から嫁いで来ており二人の男の子達もみんなアーティストを目指して勉強していると云う。16歳の上の息子はタシケント大学の芸術部コースに繋がる同市にあるコレージュで勉強、下の息子13歳は人物画が得意で将来その方向に進むのだと云って、早くも子供達の将来のコースを決めているかのようだ。最初私達は、店の主人は単なるミニアチュアの商人かと思ったものだが、なかなかの芸術家でブハラ大学の芸術部で週に2回教えていると云う“本物”であることが解かった。店ではお茶を出されたり、地下のアトリエを見せて呉れたり大歓迎を受けた後は色々たくさんものを買わされることになった。最後に半分ぐらい冗談でフランスに来たら家に来て下さいと云ってこちらの住所を置いて行ったら、なんと翌年奥さん連れで本当にやって来た。しかも、或る日突然電話が掛って来て、今パリの空港に着いたところだが、2-3日泊めて欲しい、とくる。成程、昔はコミュニケーション手段が無かった中央アジアの旅人達は、こうしていきなり人の家に訪れる事が当たり前の事であったのだなあと思いながら我が家に入って貰った。かくして、次の年、即ち今年もまた夫婦で我が家に3泊して行った。聞けば私達のようにブハラの店で知り合ったフランスや他のヨーロッパ人を頼りにあちこち歩き回っているようだ。そして、知り合いになった人達がアレンジするミニアチュア主体の展示会を開いて商売しながら回っており、今年はフランス国内3か所の他にスイス、ドイツでもやると云って、先ずは我々のパリの家を“根拠地”にあちこち連絡を取っている様子であった。

アーティストと云ってもやはり中央アジアの商売人の魂がはっきりと入っていることは、私達の家で3食付きで世話になっていながら、ばっちりと私達にもまた色々な物を売り付けて行った事でも

解かる。尤も買わされた私達の方が“甘い”のかなと思ったり、後で思わず苦笑させられたものだが、「絹の道」の商人の伝統魂を見た感じだ。この分では来年も又我が家にやって来そう



良家のお嬢さん。二人の両親の家で食事を御馳走になった



ブハラの市場で果物売る娘、こちらは庶民家庭の娘さんだろう

サマルカンド、「青真珠」の街

ブハラを後にしてまたバスでサマルカンドに向かう。ブハラ、サマルカンド間は「絹の道、ロイヤルコース」と呼ばれている。この間にかけて旅人の尤も多いコースであつたらしい。途中、金鉾山で有名なナボイ市を通り抜けサマルカンドに。この間二百キロの距離で短く、途中大小の町々が多く途中休憩には困らないといったところ。

日本では「西域」と呼ばれているが、欧州の人達にとっては「オリエント（東方）」と呼ばれる中央アジアの一角は、どちらから見ても神秘的な響きのする憧れの地である。

さてはいよいよ旅のクライマックス「サマルカンドの青」が見えるかとバスの中でわくわくしながら着いたサマルカンドは生憎曇り空。翌日も雨こそ降らなかったが天気は今一つ。最初は「サマルカンドの青」とは空の色の事かと思ったが、実はそうではなくモスクや神学校遺跡のタイル張り模様の“青”の事をさしているのだと云う事が解かった。勿論青模様の丸いモスクのドームが紺碧の空を背景に聳え立っている姿が最高で、これは絵葉書にもなっている。結局サマルカンド最後の日の朝は快晴で、紺碧の青空と遺跡群の青がマッチした“完全な”「サマルカンドの青」を見る事が出来て大満足。



サマルカンド、レギスタン（“砂地”と云う意味）広場で記念撮影

サマルカンドはかつてのシルクロードの中心都市。「話に聞いた以上に美しい」とは紀元前 4 世紀に中央アジアを席卷、征服したアレキサンダー大王の言葉。その頃から街の美しさは音に聞こえていたと云うことだが、この美しい都は 1220 のモンゴル軍が徹底的に破壊、四分の三人以上の住民が殺戮されたと云うから恐ろしい。その後、かのティムール（*注）が出て町を再建、今日見る見事な町の様相の基礎を築いた。「ジンギスカンが破壊し、ティムールが築いた」サマルカンドの迫力は圧倒的だ。「中央アジアの真珠」、「イスラム世界の宝石」、「絹の道の憩いの休憩地」、「商才にたけた町」、「工芸技術の粋を集めた建築」、「天の青と地の青が競い合う町」等々という言葉はあながち誇張ではない。

（*注）中央アジアでは傑出した 15 世紀の英雄で中央アジア一帯を征服。その子孫がやがてインドのムガル帝国建設の祖となる。

バザール（市場）見学をした。各地から集まる野菜、果物、肉類の食料品、こんなにも種類があるのかと思われる穀物類や香辛料の屋台店が、衣類の小屋の様な店に交じって雑然とごった返し、僅かの隙間の中で風呂敷を広げて物売る“俄か商人”が、通る人の目を誘おうと必死の眼差しを向け、立ち食い屋台やリアカー食堂が煙を立てながら道の客の鼻や舌と胃袋に訴える。何んでもありのサマルカンドの市場は今でも賑やかで祭り騒ぎの様相。ナンと呼ばれるパンが美味しく一つ買って食べながらの市場見学は楽しい。

日本ひいきのウズベキスタン

意外なところで出会った日本ひいきの人達。ウズベキスタン旅行中感じたのは現地の人々の日本への憧れ感情である。日本人の旅行者が意外と多いので、タチアナ嬢に聞くと外国（この場合欧米日の先進国）の中で日本人の旅行者数が一番多いと云う。次にドイツ人、フランス人、アメリカ人等と続らしい。そう云えばプハラ遺跡見学をしていたら、日本人の団体グループに出くわした。我々の 20 人グループより多い 30 - 40 名ぐらいのグループで、日本語で喋っているウズベキスタン人のガイドに引率されていた。ウズベキスタンでは日本語は最近ちょっとしたブームになっていると云う。後で解かったのだが、「Noriko 学級」と云うのが有って、ウズベキスタン滞在経験がある大崎氏が創設した日本語学校で、奥さんの紀子さんの名前を取って付けた学校だと云う。そんな事情もあってか最近ではタシケント大学の文学部にも日本語学科が出来ていると云う。ウズベキスタンから帰りの飛行機の中で、近くの

席にいた若い青年が僕に話しかけて来た。結構日本語が出来るので、聞いて見るとタシケント大学で日本語を勉強した後、旅行会社に勤めていると云う。彼が語るには、自分は日本人の知り合いも結構あるが、今日本人で年金生活を始めた人からウズベキスタンでの住まい探しの依頼を受け案件を物色しているところだと云う。日本の受給年金でウズベキスタンで十二分に暮しが出来るので本人は老後をウズベキスタンで過ごすことを真剣に考えていると云う。



首都タシケントにあるウズベキスタン工芸美術館 日本の援助が入っている

日本 - ウズベキスタン関係でいえば、ツアー第一日目に着いたタシケントでウズベキスタン工芸博物館を見学した際、工芸品のショウウィンドウケースの隅に日本の ODA のシールが貼ってあった。日本はこんなところでも援助しているのだなあとと思った。

今は 10 年以上前の事だがブハラ製油所建設プロジェクトと云うのが有った。フランスのエンジニアリング会社主導の大型プロジェクトであったが、2 億ドルを超えるプロジェクトのファイナンスはフランス一国ではリスクが大きすぎるとして日本が入り、日仏協力案件に仕立て上げた。即ち、フランス側は仏企業の供給部分にコファスと云う政府系の保険、日本企業担当部門に日本輸出入銀行の融資と輸出保険を組み合わせる契約を成立させたもので、当時としてはソ連崩壊後のウズベキスタン向けの大型プラント輸出として画期的な契約であった。その後、ナボイ金鉱山開発プラントプロジェクト等の大型プラント案件もあったが、これはその後立ち消えになってしまっていて、今はどうなっているのかわからない。

後で外務省のホームページでウズベキスタン共和国に就いて見たところ、日本の対ウズベキスタン経済協力は 2008 年時点で 1) 有償資金協力 975 億円、2) 無償資金協力 197 億円 3) 技術協力実績 111 億円 4) 人道支援 1500 万ドル (2006 年) となっている。また、主要援助国では毎年日本とアメリカが 1, 2 位を争っている感で 3 位ドイツ、4 位が一貫してスイスでフランスは近年 5 位のポジションにある。国民の対日感情が良いのも日本の経済援助とは無関係ではなさそうだ。




伝統的な「スザニ」(刺繍を施した布)

ツアー最終日は朝早くサマルカンドを発ち、昼ごろにタシケントに到着。ソ連時代は倉庫に使われていたと云う 16 世紀建立のクカルダシュ神学校と、昔ながらの雰囲気と賑わいを見せていると云うチョルサー・バザール(市場)を見学した後フランスへの帰途に就いた。「絹の道」や「西域」と呼ばれる一帯の中心地を見た後の感動を胸に抱いてウズベキスタン・エアーの夜行便の中で眠りに就いた。

小幡 佳 (おばた このむ)

フランス滞在歴 37 年以上、その間アルジェリアにてプラントビジネスに携わるなど某日本大手商社の商社マンとして、欧州と日本の架け橋となるべく奮闘の後、現在悠々自適の生活をめざしながらも毎日、新聞、雑誌、本などを読み世の中の動きに一喜一憂しながらのリタイアメントライフを過している。



05 フランス・欧州トピックス

小幡さんより、フランスの新聞（ル・モンド紙、フィガロ紙、レ・ゼコー紙等々）その他雑誌記事より集めていただいた貴重な情報です。

今後不定期ではありますが、随時お届けしたいと思っていますので楽しみに。

<フランス、欧州トピックス> 2010年11月

年金改革の攻防を巡って荒れたフランスの10月も改革法案の上下院通過、大統領による発布で最終決着。11月14日に発足した第3次フィヨン首相内閣は財政赤字削減を優先課題とした所信表明。改造内閣の顔触れはシラク前大統領派の多い保守“本流”系閣僚が多い内閣となり、2012年の大統領選を睨んだ配陣となっている。

NATOの首脳会議後に起こった北朝鮮の砲撃事件。こちらでも一瞬アッと云わせたものだが、北朝鮮国内の親子間での指導者引き継ぐに伴うデモンストレーションか？としてマスメディアは一様に冷静な分析報道。ただ、この様な事が2度目も起こる様な事になれば事情が異なって来るとして今後の極東情勢に警戒心を持ってウォッチすべしとしている。

一方、アイルランド政府はついにEU、IMFの支援を受け入れる事となったが、これを「国辱」として反発するが独立心の強いアイルランド国民を怒らせる結果となり、同国の政治的、社会的騒乱の到来を予告するものとなった。次はポルトガル、そしてスペインか？揺れるPIGS諸国の波紋が、まさか何時かはイタリア、フランスにも押し寄せて来ないか。かくして景気浮揚策を差し置いての財政赤字削減政策の遂行は至上課題となる。南欧諸国にとっては国内問題よりも市場と格付け機関による眼差しの方がより怖いと云うところ。と云う訳で各国は財政緊縮で「何処も同じ厳寒の到来」。イギリスやイタリアでは大学の予算切り詰め、学費の値上がりで学生たちが反乱。ポルトガルでは政府の緊縮政策の一環として実行される給与カット、消費税の値上げに対して同国では20年振りとなるゼネストが決行さる。国内経済回復へと輸出振興に力を入れている各国だが、結局のところは、人民元切り上げ拒否でイライラさせている中国、そしてインド等の新興国に良い顔を向けざるを得ない。11月、フランスは中国の胡錦濤主席を平身低頭、赤絨毯で迎えれば、英国はキャメロン首相が閣僚4人に財界トップ50人も引き連れて中国詣で。中国の人権問題等はブリュセルの欧州委員会に“型どおり”の宣言をさせて置いて、自国の商談を最優先。対中関係ぎくしゃくした関係にある米国は、インドは組み易しとしてオバマ大統領が訪印。技術立国の日本と云えばレアアースの供給先分散化を目指してベトナムやオーストラリアにますます接近。エネルギー資源の安定供給を求めた対産油、産ガス国向け八方外交の日本にとって、レアアースでは世界数少ない産出国に対する集中外交が要求される。

11月の第三木曜日、恒例ワイン新酒ボージョレーヌーボーが解禁。最近ややマンネリ気味の新酒は“量より質で”と、以前のボージョレーヌーボーより新酒特有の酢っぱ味が減りやや“沈んだ穏やかな味”と生産者は云っているがどうでしょう？今年の夏は猛暑でも無く、その後の秋も適度に雨が降ったせい

か、森林の木々は金色に黄葉し、郊外の新興住宅地で最近めっきり増えたカエデの木の紅葉が心和やかにしてくれるが、なんと云ってもヨーロッパの石造りの古い家の壁を覆うツタ紅葉には風情有る。石垣、石壁を傷めないものかと思ったりするが、それは余計な心配と云うものらしい。ただ今年の冬の到来は早く 11 月末に早くも寒波が襲い、北欧ではマイナス 20 度を超え、ポーランド等では積雪の為空港が麻痺。フランスでも各地で雪が降り、「シェルブールの雨傘」で有名なノルマンディー地方の西端の街では 60 センチもの積雪と云う半世紀以来の冬の天候大異変を記録。スノータイヤは各地で供給が間に合わず。欧州の北半分が大寒波に見舞われている一方、南欧のギリシアの海岸ではビキニ嬢が海水浴を楽しんでいる場面、11 月には一滴の雨も降らなかったイスラエルで山林火災が猛威をふるっている場面がテレビ報道でなされるが、最近人々は天地異変にも慣れ切って来た感が有り。11 月末、メキシコのカンクーンで始まった地球温暖化に関する世界会議は、各国間実務レベルでは始めから荒れっぱなし、早くも昨年のコペンハーゲン会議に続いての失敗を予想する向きが多い。

パリ百貨店では 11 月には早くも店内にクリスマスイルミネーションで飾り付け、年末の買い物客を誘い始めて既に年末の商戦開始。「いざ、クリスマス！」で 12 月に入る。クリスマスで樅の木に飾り物や贈り物等をつるして祝う「クリスマスツリー」の習慣は宗教改革後の 17 世紀に、今はフランス領であるアルザス地方（当時はドイツ領）のストラスブルグで始まったと云われる。と云う起源もあって今でもストラスブルグの街に飾られるクリスマスツリーの大きさは群を抜いており、11 月末に始まる「クリスマス市場」と称して街々に臨時に設けられるお祭り市場を目当てに各地から毎年 200 万の人が押し寄せると云う。

1. フランス / 中国国家主席訪問に対する“平身低頭、赤絨毯”歓迎

中国の胡錦濤国家主席が 11 月 4 - 6 日国賓待遇でフランスを訪問。4 日の胡主席、サルコジ大統領会談では中仏間合計 200 億ユーロ（約 2 兆 2 千億円）の売買契約の合意に至り、その内訳はエアバス旅客機 102 機（100 億ユーロ）、原子力のアレバ社による 10 年間ウラン供給契約（25 億ユーロ）等合計 20 件の契約件数に上ると云う。また、仏石油メジャーのトタル社による中国の石油化学事業に対する 20 - 30 億ユーロの投資、保険会社グルパマと中国航空会社（Avic）による共同保険会社の設立計画等の事業案件が確認されている。サルコジ大統領より胡主席に対しては次回の G20 より議長国となるフランスに対する中国の協力、国際通貨体制の改革の必要性に対する理解等を求めた。中仏関係は 2008 年中国オリンピック前後に生じたチベット人権問題で悪化していたが、今回の胡主席の訪問は両国関係が完全に平常化した事の確認の意味合いも持つもの。しかしながら、今回のフランス政府による胡主席訪問への対応は、人権問題で質問を避ける為の記者会見無し、胡主席を南仏ニースの有名レストラン招待等、まさに“平身低頭、赤絨毯”歓迎と云うもので、人権保護団体等の一部からその対応姿勢に対する批判が出ている。

* 今回の胡主席の訪仏に対するフランスの“平身低頭、赤絨毯”対応は、輸出産業が低迷するフランスの苦悩の裏返し。国民は政府の卑屈さに苦笑させられているところ。尚、200 億ユーロの売買契約に合意したと云っても、飽くまでトップレベルでの「合意」であって真のコマーシャルレベルでの最終契約では無い。フランスは既にブラジルとラファル戦闘機納入の大型契約で「合意」、リビアのカダフィともいくつかの大型契約等を交わしているものの、実態面ではその後最終契約等に至っていないと云う事などに見られるように、トップレベルの「合意」と実務レベルで煮詰めた上での最終契約との間に大きな隔たりがあるのは何時もの通り。「合意」金額の半分ぐらいでも実質契約出来ればよし、と云う

感覚で見えていた方が良さそう。一方、中国側にしてみれば人民元に対する国際的圧力から矛先をかわす意味でも、G20 の議長国ともなるフランスとの友好関係を築き上げておいた方が得策との判断で動いている事は確か。

2. 国際通貨基金(IMF) / 欧州諸国の出資・権限削減、新興国の勢力拡大

IMF は 5 日開かれた理事会で各国の出資割当額と投票権の変更を主とする改革案を採決。改革案は、1) 出資割当総額を 3740 億ドルから 7500 億ドルに増額、2) 各国の出資割当額見直し、3) 任命理事制から選任理事制移行等のガバナンス変革の 3 点が改革の柱となっている。出資割当比率、投票権比率の見直しでは、米国、日本の出資比率はほぼ現状維持(僅かに上昇)となるが、欧州各国の出資比率が下がる一方、中国、インド、ブラジル、メキシコ等の新興国の出資比率が上昇。特に中国の出資割当比率が 2006 年の 2.98%から 2011 年には 6.39%へと大幅に伸び米国、日本に次ぐ 3 位の出資国となる。また、ガバナンス改革では、理事会を従来の西側 5 大出資国による任命理事制より幅広い選任理事制への移行を計る。改革は各国の議会による承認、発効の手続きを経た 2012 年後になるが、要は出資国は米国、日本、欧州 4 大国(独、仏、英、伊)及び BRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国)の 10 大出資国となる。尚、最重要案件の決定には 85%の議決権を必要とする点に就いての変更は無く、17.43%の出資シェア、議決権を有する米国の拒否権は維持されることとなる。

因みに改革後の出資比率上位 10 カ国別シェア は以下となる(括弧内は 2006 年の地位)

1 位	米国	17.43%	(2006 年	1 位	17.38%)
2 .	日本	6.47%	(同	2	6.47%)
3 .	中国	6.39%	(同	9	2.98%)
4 .	ドイツ	5.59%	(同	3	6.09%)
5 .	フランス	4.23%	(同	4	5.02%)
6 .	イギリス	4.23%	(同	5	5.02%)
7 .	イタリア	3.16%	(同	6	3.30%)
8 .	インド	2.75%	(同	13	1.95%)
9 .	ロシア	2.71%	(同	10	2.78%)
10 .	ブラジル	2.32%	(同	17	1.42%)

尚、メキシコは 2006 年 19 位(1.21%)から 2011 年 14 位(1.87%)となる(出所; IMF)

* 出資総額の倍増は危機の際の加盟国に対する援助能力の増大となり、出資シェアの変更は新興国の勢力増大を反映し、理事会改革は従来の先進国からの理事任命制から国連等の国際的主要機関に似た選任制になると云う事になる等、今回の IMF 改革は「歴史的」な改革と云われる所以である。また、欧州諸国の相対的地位低下は IMF 改革でも確認される所。

3. スペイン / ローマ法王、「サクラダ・ファミリア」でミサ

スペイン訪問のローマ法王 ベネディクト 16 世は 7 日、バルセロナの「サクラダ・ファミリア」教会でミサ。“聖家族”を意味する「サクラダ・ファミリア」教会は伝説的な建築家アントニオ・ガウディのライフワークとされる建築物で 1882 年に建設が着工され、現在に至るまで工事が続いており、完工はガウディ没後 100 年となる 2026 年予定。世界遺産に指定されており観光名所ともなっている未完成「サクラダ・ファミリア」は、今回のローマ法王の聖別ミサにより正式に教会と認定されることとなった。これまでは地下にある聖堂だけが祈りの場とされていたが、今回の法王によるミサにより建物全体が「神の家」とる。カトリック信者の個人の献金によって始められた建築工事は、建築家の変更、スベ

イン内戦によるその模型や設計書破壊等の紆余曲折あり、何時完成するとも解からない状態にあったが、近年のスペインの経済好況に支えられて漸く 2026 年の完成と云う予定目標が立てられた経緯あり。尚、今回のローマ法王のスペイン訪問は、近年の高位聖職者によるホロコースト否定発言、未成年者の性虐待問題等に揺さぶられ、教会批判世論が高まっている中で、カトリック教に対する信頼を取り戻す意図で行われたものとも見られている。

* バルセロナの「サクラダ・ファミリア」は圧巻。宗教心が無い人でも未完成の教会の荘厳さに圧倒される。1882 年着工、2026 年完工（予定）と一世紀以上の工事期間で建てられる教会は、何か中世の時代の教会建設工事期間のようだが、内部のキリストにまつわる繊細な彫刻等を見ると、早く終われるような仕事内容ではないことが頷ける。バルセロナに行って「サクラダ・ファミリアを見ずして帰るなかれ！」だ。

4. ドイツ / 高レベル放射性廃棄物の輸送に座り込みデモ

ドイツの原発（原子力発電所）から出る使用済み核燃料はフランスで再処理されまたドイツの貯蔵施設に送り返されることになっているが、このオペレーションはこれまで 12 回に亘って行われている。毎回のことながら、特にドイツではグリーンピース等の環境派グループを中心とした核燃料鉄道輸送反対デモが展開されが、今回のドイツでのデモは特別激しく、ドイツの各地で線路への座り込み抗議が相次ぎ、ドイツ内務省では 2 万人の警察を動員して座り込みデモ隊を排除、特に貯蔵所施設手前の最後の 20 キロでは、警察が線路の座り込みデモ隊員を一人一人引きずり排除して輸送列車を通すと云う作業を展開。これは前回発生した線路デモ隊員の中から列車による轢死者が出た事の実験を踏まえ、手は掛るが安全性を考慮した排除作業にしたもの。結局、フランスの再処理工場からドイツの北部にあるゴアレーベン中間貯蔵施設迄の輸送に 92 時間を要した事になった。尚、この様な反対運動に対し輸送の当事者であるアレバ社（仏原子力のコングロマリッド）は、放射性廃棄物輸送は 1996 年以来 11 回にも亘って行っている事で、今更のように市民の恐怖を煽るのはグリーンピースの常套手段であり、輸送方法もコンクリートが 50 メーターの高さからの落下のショック、また 30 分間 800 度の高温にも耐えられる容器に格納された輸送であり、問題視する意味が解からないとしている。一方、反対派の主張によれば、チェルノブイリ事故時の排放射能の倍の放射能を含むのに、輸送経路は住民に説明されていない、また放射性廃棄物の確かな管理施設、体制が整っていないのに原発を続行すると云うのは理に合っていないとする。メルケル政権は 9 月、前政権の約束事に反しドイツ国内の原発の稼働期限を延長（本レポート 9 月号参照）。今回は此のメルケル政権による原発稼働の延長に対する抗議の意も含んだものであるとされている。輸送反対抗議運動には 4 - 5 万人の人が参加したとされており、原発反対派は「抗議運動は成功」と位置付けている。

* 日本も原発の使用済み燃料をフランスに送り、再処理（レア グ処理所）した後、また日本に送り返すオペレーションを行っている。青森の六ヶ村で建設中の再処理プラントが完成すればその必要性がぐっと下がる事になるが、何れにしても再処理後、更に燃焼させた後で、どうしても処理しきれなく残る高レベル放射性廃棄物の処理は原発を行っている国の頭の痛い問題。フランスでは地下 500 メーター深くに貯蔵所を建設して廃棄物処理を行う方針だが、これはまたそんな処理施設を受け入れて呉れる地方自治体の候補地選定で手間取っているのが現状。

5. G20 首脳会議 / フランス議長国でサルコジ大統領の「腕の見せ所」

ソウルで開催された G20 の首脳会議は、12 日首脳宣言を採択して閉幕。ポイントは 1) 今日最大の課題である世界経済の不均衡問題に就いて、来年度中に適度に不均衡かどうか判断する事とし、その評

価をフランスが議長国を務める来年度に行う事にする、2) 為替レートの問題に対しては、柔軟性を持って対応し、通貨戦争を回避することで一致、3) 外貨準備を適切なレベルにあって柔軟な為替政策を取っている国の方策は認めるが、継続的な為替介入によって自国通貨の価値を低く抑えて行く政策は、認めがたいとする(人民元の価値を低く抑えている中国の政策には、正当性が無い事を暗に示唆している) 4) 輸出規制等の保護主義的措置を是正する事、等である。その他、貿易の自由化をより促進する事議論もされ、輸出規制に関連して、中国のレアアース(希土類)の輸出規制を牽制。更に金融機関関連では、その活動が国際的に展開されて破産させられない大手の銀行に就いてはその自己資本の質を高める「パーゼル3」規制を承認した事も確認し、金融機関の健全性を義務付ける具体的な指針を来年度中に決める事とした。

以上が首脳会議で確認された骨子だが、最大の課題である経済の不均衡是正の為の評価基準は来年の議長国フランスが行う事で、来年はサルコジ政権の“腕の見せ所”となる。

6. フランス / 内閣改造、第3次フィヨン内閣は2012年の大統領選への布陣

フィヨン首相の続投が決まった後の14日、大統領府は第三次フィヨン内閣の人事を発表。今回の内閣人事の特徴は第一にボルロー・エコロジ 相(前政府ではNo.2で副首相格)及びモラン国防相の中道系閣僚が内閣を離れ、代わってジュッペ元首相の国防相としての入閣に代表される様に、シラク(前大統領)派、即ち保守“本流”派が多い内閣となったこと、第二に「移民、国民アイデンティティ相」が廃止され、移民問題は「内務・海外領土・地方公共団体・移民相」として内務省管轄となったが、「国民アイデンティティ」問題はサルコジ大統領自ら主導したテーマであったものが今回の内閣改造で肩書が消えた事等である。閣僚数は36人から30人に減り、肩書別では、大臣、担当大臣、閣外相から大臣、主任大臣付き大臣、閣外相と云う序列に変更、また今回の改造で15人が内閣を離れ、9人が新たに入閣。女性閣僚は9人、内、主任大臣付き大臣6名。重要ポストでは経済・財政・産業相のラガルド女史が留任し、アリオマリ女史が法務大臣から外務大臣に転任。今回の内閣改造人事では中間層や一般層に亘って幅広い人気のあるボルロー・エコロジ 相の首相就任が取りざたされたが、与党内の右派勢力からの強い支持を受けたフィヨン首相の続投が決まったことで、サルコジ大統領は右寄り層で堅く固めた勢力を中心に更なる改革路線を歩み、2012年の大統領選を戦う事を決めたと見る向きが多い。尚、保守与党のUMPの幹事長にはコペ現下院議員団長の就任をサルコジ大統領が受け入れた。シラク派とされる同氏は党運営で主導権を握り次の次大統領の座を狙うとされている。

* ボルロー・エコロジ 相は中道系に近い政党の中心人物で、年金改革問題等で国民と政府の間で大きな溝が出た後の社会的融和を謳って、首相就任に意欲を持っていたところだが、今回の改造では大統領筋からは首相のポスト以外は何でも好きなポストを与えるとして閣内留任を求められたにも拘わらず、これを断り野に下った形となった。2012年の大統領選に出馬するとみなされている。彼のワイン好きは有名。

7. ワイン / 世界のワイン市場減退、フランスは1位の座に復帰

15日付けの仏フィガロ紙は世界のワイン生産状況に関する記事を掲載。2010年の世界のワイン生産量は前年対比でマイナス4%となった。これは市場調整の為のワイン畑の削減、経済危機による市場収縮が主な原因としている。国別では、前年対比マイナス2%のフランスが同マイナス11%を記録したイタリアを逆転して第1位の座に復帰。スペイン及び南アのワイン生産量は前年対比横ばいを示す一方、米国マイナス9%、オーストラリア、チリ共にマイナス7%、大きく増えたのはアルジェンチンの33%。世界の半分近くを生産している欧州は、市場調整政策に基づいたワイン畑削減を行って来たが、此の減反政策

は今年の冬を最後にして終止符が打たれる事になっている。今後の予測としては、ワイン市場は再度上昇気味に転化するとみられる（期待される）が、量より質への転換傾向もみられ、例えば、“小さい畑の美しい香りの（コクのある）良質ワインが求められている”とするのはブルゴーニュ地方はボヌの老舗ピシヨの代表者の話し。

* 参考までワインの国別生産量（2010年、単位；百万ヘクトリッター）

フランス	44.75	オーストラリア	10.9
イタリア	42.58	南アフリカ	9.79
スペイン	35.14	チリ	9.1
アメリカ	19.92	ドイツ	8.76
アルジェンチン	16.25	ポルトガル	5.87
		世界計	259.2

< 追記 > ブルゴーニュが好調

その後、レゼコー紙も 22 日付けの紙上でワイン市場に関する記事を掲載。同紙によればフランスのワインは本年特に輸出量で大きな増大があったとする。量的には前年対比 12.3%増、輸出額で 9.6%増加。産地別ではブルゴーニュが量で 19.3%増、額で 23.3%増を記録したとする。中でもシャブリの輸出額が前年対比で 48%も伸長したとしている。一方、ボルドーは輸出量で前年対比 6.6%、輸出額で 1.8%増にとどまり、ラングドック・ルシオン（南仏）のワインは 2.4%減少、コート・デウ・ローヌはほぼ横ばいであったとする。

8. ボージュレーヌーボー、新しい息吹を求めて！

恒例のボージュレーヌーボーが 11 月の第三木曜日の 18 日に解禁。昼にはサラリーマン等が巷のカフェやレストランでボージュレーヌーボーのコップを手にしながら楽しそうに食事をしている光景は例年の如く。18 日付けの当地のパリジャン紙は「ボージュレーヌーボー、新しい息吹を求めて！」と云う見出しで新聞の一面を割いて、近年ややマンネリ化気味のボージュレーヌーボーの再評価を試みている。ボージュレーヌーボーの解禁日を 11 月の第三木曜日と設定して以来 20 年経過、今やこの新酒は世界のスターとなって、出荷ボトル数は 50 年前の 200 万本から 4000 万本に到達している。1960 70 年台のボージュレーヌーボーはややすっぱく活力ある味覚が新酒の特徴であったが、近年やや“しっとりとして沈んだ”味に切り替わって来ている。生産者も消費者が新酒の味から、次に年代物のボージュレーヌーボーに向けて呉れる事を期待しているとして、ボージュレーヌーボーが新酒と云うだけで終わらず、ボージュレーヌーボーで次のステップに進んで行くことを狙っている。実際、ボージュレーヌーボー売上は新酒発売の 3 日間は新酒ボージュレーヌーボーは 20%の割合で 80%は“クリュ”物（年代物の良い酒）であるとしている。一方、新酒に対する評価を上げる為に、量より質を目指して居り、実際 2010 年は新酒の醸造量が 1 ヘクタール当たり 25 ヘクトリッターであり、2009 年の 1 ヘクタール当たり 32 ヘクトリッターに比べ大きく量を減らし、その分を質に転換しているとしている。

* ボージュレーヌーボー生産者達も、最近のマンネリ化気味からの脱却する為に、量から質への転換を試みている事等、苦労している姿が浮かんでくる。新酒の生産量はワイン畑全体の減反政策もあって、量的には減少してきているが、海外輸出の 2009 年の実績は 1520 万ボトルで 110 カ国に出荷されているという（パリジャン紙）。

9. イギリス / 英国人を沸かせた 2 つのニュース

政府の「歴史的」な厳しい緊縮財政政策で厳しく、重苦しいムードが漂っているイギリス、そんな国で国民を沸かせるイベント、ニュースが2件。

1件目はかの「ハリー・ポッター」シリーズの最終巻（7巻目）の映画化に伴う出演者達のプレゼンテーション。11月12日、ロンドンのレスター・スクエアは当日の雨、風、寒さ模様の天候に拘わらず、映画の主人公達を一目だけでもと、数千人のファンが詰めかけた。最終巻の映画化は2回に分けられているが今回はその前編の初公開。主人公ハリー・ポッターを演じるダニエル・レッドクリフの人気もさることながら、ハリーの一番の友達役のエマ・ワトソンの魅力は「エマの魔力」、「魅惑のエマ」、「悩殺のエマ」等とメディアの贅辞に目が無い。「ハリー・ポッター」シリーズ全7巻は今まで4億部の発行部数で、作者ワナー・ブロスに既に54億ドル稼いだと云われるが、このシリーズの続編にも意欲を燃やしていると云う。

* 児童文学範疇の物語は、魔女・魔法使いの冒険を描いたストーリーで有るが、神以外の超自然的な魔術、魔法を罪とするキリスト教やイスラム教の保守派から「邪悪な物語」として批判を受けているところもある。しかし、子供たちだけでなく大人達にまで愛読される世界のベストセラーとなってしまった今、宗教界の保守派もなすすべを失っている様子。

2件目は英国王室での目出度いニュース。チャールズ皇太子と故ダイアナ妃の長男ウィリアム王子（28）がケイト嬢（28）と共にメディアのインタビューに応じた会見で、ウィリアム王子が母ダイアナ妃の婚約指輪をケイト嬢に贈った事を明かし、事実上の婚約発表を行った事だ。暗い話が続いていた英国では、メディアを先頭に国民は大いに興奮、早くも挙式の予想日に就いての賭事をするもの（追記；その後挙式は4月29日、ウェストミンスター寺院と決定）、二人の姿を入れた陶器類製作等のあやかり商品販売の増大を期待する観光業界等、英国は久しぶりに過熱化の状況。ウィリアム王子の国民的人気は高く、父のチャールズ皇太子を差し置いて次の国王にと云う声も上がっているところ（これは後に、当のウィリアム王子自身から否定）

* ダイアナ妃（正確には元妃）は、夫チャールズ皇太子の不倫もあって離婚、その後パリのリッツ高級ホテルでエジプトのボーイフレンドと食事後、報道陣を避ける為に車で市内の大通りを飛ばしている途中、トンネルの柱に衝突して死亡。事故現場のトンネルの入り口に記念碑が置かれている。

10. NATO 首脳会議 / 「歴史的意義」を見る北大西洋条約機構

米のオバマ大統領他西側各国の首脳が勢揃いして、11月18-19日リスボンで開催された北大西洋条約機構（NATO）の首脳会議は、今後10年間のNATOのあり方を決める行動指針を採択。歴史的意義を持つとされる今回の首脳会議で取り決められた行動指針は何を意味するか？

1. 第一に旧来「ソ連圏」の脅威、ソ連を仮想敵国として対抗して集団防衛体制を取って来た西側は、今日旧来型の攻撃に対する脅威は極めて低いとして、今日のロシアをNATOの防衛システムに参加を促していることである。米国主導のミサイル防衛に欧州ミサイルシステムを繋ぎ、それにロシアを参加させる方向を取り決めている。これはかつての米ソ冷戦を背景に設立されたNATOの基本方針の歴史的転換となる。

2. 第二にはNATO加盟国が一致して「アフガン問題」に取り組む事を確認した事。具体的には2014年をターゲットとした戦闘兵士の撤退に向けた準備、撤退後のアフガン支援のあり方に関する方向付け。

3. 第三として、NATO EU間協力をパートナーシップ関係として位置づけられた事。

ただ、これにはトルコ、キプロス間紛争が絡んで曖昧なものになった事は否めない。

上述の大きな3点でNATO加盟国は一致を見たものの、「核戦力」方針で加盟国は最後のぎりぎりの段階まで対立。一応はオバマ大統領が主唱した「核なき世界」に向けた核廃絶をNATOとしての目標とし

たことは画期的ではあるが、核軍縮を具体的に行動指針に折り込む事を主張するドイツ提案（オランダや北欧諸国がバックアップ）に核保有国である、米英仏3国が応じず、ドイツ提案は見送りとなった。

また、ド・ゴール以来の「独自路線」を保持し続けようとするフランスは核抑止力に就いてフランスの独立性を主張し最後まで譲らず。尚、NATO に取っての今日の主要な脅威はイランと北朝鮮との認識を共有。ただし、NATO の公式文章には一切特定国の名前が無いが、サルコジ大統領は記者会見で、現在ミサイル攻撃をしかけて来る恐れのあるのはイランであると明言している。

11. フランス人はアメリカ人より地球温暖化問題に敏感

19日付け仏ルモンド紙は同社の依頼で行われた IFOP（世論調査機関）社によるフランス人の関心事（心配事）に関する調査結果を発表。全体的関心事としては1. 経済危機（全体の54%）2. テロ（同43%）3. 天然資源（同31%）4. 温暖化（同26%）となっており、天然資源、温暖化を合わせた自然環境問題が最大の関心事、心配事となっている。今回はこの自然環境問題に関する世論調査に関するより具体的な調査を行ったものだが、項目ごとの調査結果は以下の通り（米国との比較項目はギャロップ社との共同調査）

1) 今日あなたが最も心配するリスクは？

. 天候異変に伴うリスク	41%	(2008年7月の調査	53%)
. 水汚染に伴うリスク	34%	(同	36%)
. 食品に関するリスク	29%	(同	23%)
. 原子力発電に伴うリスク	24%	(同	27%)
. 産業に関連するリスク	23%	(同	16%)
. 都会の大気汚染リスク	18%	(同	24%)
. アスベスト関連リスク	3%	(同	4%)

2) 地球温暖化問題に伴うリスクに就いてあなたはどのように感じているか？

	フランス	アメリカ
. 既にリスクを感じ始めている	66%	50%
. ここ数年間でリスクを感じ始めるだろう	9%	3%
. 存命中に感じ始めるだろう	10%	10%
. 存命中は感じなく次世代で感じ始めるだろう	9%	16%
. リスクは発生しないだろう	2%	19%

3) あなたの知る限り、1世紀来の地球気温上昇は、

	フランス	アメリカ
. 人間の活動結果によるものと考え	74%	50%
. 人間の活動とは関係の無い自然現象と考え	20%	46%
. 解からない	6%	4%

4) 温暖化はあなた自身又はあなたの生活態度に取って重大脅威と考えますか？

	フランス	アメリカ
. 重大脅威と感じる	56%	32%
. 重大脅威と感じない	34%	67%

* 以上の世論調査結果だが、人々の自然環境、地球温暖化に対する感じ方に、フランス人と、アメリカ人の間に大きな“温度差”があるのに気付く。これでは地球温暖化に関する国際会議でのアメリカの消極的態度に頷けると云うもの。同じ質問に日本人はどう答えるだろうか？

12. インド / 「竹」、未来の資材として再発見

仏ル・モンド紙はインド特派員のレポートとして、インドにおける「竹（バンブー）」資材の使い道で新しい視野が開けつつあり、産業への適用化が期待されていると報道。パキスタンとの国境近い雪を抱くヒマヤラ山脈の麓地帯でインド軍が竹小屋で夜を過ごしている。これは 2005 年インド政府が竹資材応用ミッション（NMBA）を設立して竹資材を基にした産業化を狙った公共事業の一環である。竹は温熱保護の観点からすれば理想的な資材で、竹の家づくりも 1 日ぐらいで簡単に出来る上に、コンクリートの家建築の費用の半分で済むとしている。前回ラダク地方の水害犠牲者用のプラスチックテントハウスを竹ハウスに切り替えている。インド政府は経済的で早仕上がり可能な竹ハウスは取り敢えず住宅が密集した暴動多発地域で利用しており、竹材は木材より強くかつ燃えにくいと云う特徴があるとその効用に注目している。長い間北東部地方の部族によってしか知られていなかった竹、その用途も新生児の臍の尾を切ったり、部族の祭りにしか使われなかった竹は、実はインドが世界の 30% の「竹」資源を持っているにも拘わらず、この分野の販売高が 4% しかないと云う事等も明るみになっている。尤も、50 年ほど前の悪い評判も未だに残っている。即ち、竹のパリエーション（タケノコ）がネズミの餌となってネズミが一大繁殖した結果住民の食料品ストックを襲う等の悪夢があった事だ。しかしながら、今日竹は、他の木材類より多くの酸素を含有している事、炭素のダイオキシンを多量に吸い取る事等環境に良い結果をもたらす上に、木としての成長度が早いとして、政府は最近俄かに竹資材産業の振興を謳い始めている。他に竹繊維による衣料産業への応用、更に発展して竹資材で製作される「竹自動車」等も真剣に考えられている。ただ、竹産業の発展に竹林からの集荷の為の輸送インフラ等が遅れている事もあり、竹産業発展の前に横たわる課題も多いことは事実である。

* 筆者は以前（数年前）会社での社内営業会議の折、繊維部門からの発表で“竹繊維を基にした衣料品販売を将来の有力案件として考えている”とあったので、詳しいことを質問して見ると、どうも中国産の竹衣料の欧州市場の導入、また、竹繊維を輸入してチュニジアとかモロッコで衣料仕立てして欧州で販売すると云う構想であった。その後どうなったかなあと思っていたら、極最近フランスの朝のテレビ番組で、竹繊維の衣料がブームを呼びつつあるとして、竹衣料の紹介があった。

成程ネ！と感心していたものだが、中国に近く、「竹文化」を持つ日本では、こんなことぐらい今更ニュースにならない位に普及してしまっているのかな？

13. OECD(経済協力開発機構)、経済見通し発表

18 日、OECD は 201 年、2011 年、2012 年の GDP 成長率の見通しを発表。その内容、ポイントを纏めて見ると以下の通り。

- 1) 先ず、世界全体の成長率は 2010 年度 4.6% から 2011 年 4.2% に下降するとしている。
- 2) OECD 加盟国、ユーロ圏加盟国、EU 加盟国別の経済見通しは以下。

	2010 年	2011 年	2012 年
-. OECD 加盟国	2.8%	2.3%	2.8%
-. ユーロ圏全体	1.7%	1.7%	2.0%
ドイツ	3.5%	2.5%	2.2%
フランス	1.6%	1.6%	2.0%
イタリア	1.0%	1.3%	1.6%

	ギリシア	- 3.9%	2.7%	0.5%
- . イギリス		1.8%	1.7%	2.0%
- . 日本		3.7%	1.7%	1.3%

3) フランスの場合

フランスの成長率見通しは上述の如く OECD 全体の成長率と比較してかなり低レベルの成長率でドイツと対照的。フランス政府は 2011 年の予算を、成長率 2011 年、2%の前提で作成しているため、OECD の成長予測の 1.6%だとすれば財政赤字の幅にも響いて来る。因みに、フランス政府の財政赤字見通しは 2010 年マイナス 7.4%、2011 年マイナス 6.1% (OECD 見通しでは 6.0%)、2012 年 4.8%となっている。また失業率は 2010 年 9.3%、2011 年 9.1%、2012 年 8.8%の見通し。OECD は、フランスが公共財政に関する約束を守るには、支出 (特に公共行政、保健分野) の削減、課税対象の拡大 (税制優遇措置の廃止等) を求める一方、税収入の増大の為に環境関連税や資産税の増加、更に付加価値税 (消費税) 収入の増大等を見込まねばならないとしている。

14. 将来に不安を抱くフランスの中産階級

18 日付けの仏パリジャン紙は調査機関 IFOP が行った中産階級に関する調査結果を発表したが、フランスの中産階級は大きな不安感を感じていると結論付けている。中産階級のはっきりした定義はあるわけではないが、給与所得水準で一世帯、一か月の収入が 2300 ユーロ (約 260 万円) から 5300 ユーロ (600 万円) の間の人達としている。この中産階級を上と下のカテゴリーに分けられるが、二つの範疇は各人の生活装備状況 (所有している資産、財産等) によっても変わるとしている。また、この中産階級に属する家庭、家族は全体の 52%であると言う (因みに、富裕家族 2%、上級階層 13%、下級階層 29%、生活苦階層 4%)。此の中産階級の大きな関心事、不満・心配事は次の 5 点である。即ち、1) 家のオーナーに成れない。つまり持ち家が欲しいが難しい (既に持ち家のある者はセカンドハウスが欲しい)、2) 社会保障システムが "不必要" に厚く、それを悪用する人達が多すぎる。つまり社会保障制度を食い物にしている人が多い、3) 富裕層の子弟は学校の選択に恵まれている、4) イスラムの進出に不安を抱いている、5) フランスには移民が多すぎる、となっている。また、中産階級の人達の生活スタイルは次のようになっている。1) 61%が一戸建ち家に住まい (フランス平均 64%)、2) 40%が 2 台の自家用車を所有 (フランス平均 45.1%)、3) 35%が毎年バカンスに出掛ける (フランス平均 39%)、4) 43%がハード・デスカウントショップで買い物 (フランス平均 39%)、5) 月の貯蓄金額平均は 369 ユーロ (約 4 万 2 千円)。最後にフランスの中産階級は経済危機、グローバル化の結果としての企業の海外移転等に伴うフランス国内の雇用の不安定化等で、自分は何時かは下層階級に転落するのではないかと云う不安と、自分の子供たちの不可視ともいえる未来に対する不安に襲われているとしており、かつて中産階級の人達はプチブル (プチ・ブルジュワ) と云われ、富裕ではないが安定感のある階級層と見做されていたのが、今日不安定感に苛まされている中産階級ではないかと、と云うのがこの調査結果の結論である。

15. アイルランド / 国際的支援受け入れとその後の展開 危機を孕む欧州

< その 1、ついに国際的支援を受け入れを承諾したアイルランド >

アイルランド政府は同国の銀行支援の為に莫大な支出で財政赤字が 32%にも達し重大な財政危機に見舞われ (本レポート 9 月号) 市場ではソブリンリスクが極限まで高まって来ていたが、11 月 21 日、EU/IMF とアイルランド間で国際的財政支援の合意に達した。此の合意に先立って日米等の G7 諸国間でも協議がなされたことは、ギリシアに次いでアイルランドの財政危機が如何に大きな国際的市場不安を起し

ているかを物語っている。大きな財政ピンチに立たされながらもぎりぎりまで国際的支援を拒否して来たアイルランド政府には、外部からの支援介入を主権侵害と見做す国民の強い反発心があり、実際支援受け入れ決定と共に、首都ダブリン等で抗議デモが展開されている。対アイルランドのエクスポージャーではドイツ、イギリスの銀行群が高く、次いでアメリカ、フランス等となっており、ギリシア危機ではこの足を踏んだドイツも、今回のアイルランド支援には積極的に行動したのが特徴的である。今回の支援は、EU、IMF が日米も含めた G7 の力も借りて、漸くアイルランド政府に支援受け入れを押しつけたと云うところだが、とにかくこれで一旦市場は安堵しユーロ相場も回復。

< その 2、アイルランド国内危機の始まり >

1921 年英連邦より独立した若き国アイルランド、外国からの支援介入を「国辱」と見做し程、滅法強い独立気質を持つアイルランド人は、この受け入れに対しナショナリストが先頭に立って激しいデモを展開。コーウェン首相は、国際的支援受け入れ発表の後、時を置かずして、議会の解散、4 年間の緊縮財政計画の提出と 2011 年予算提出した後、繰り上げ総選挙を実地することを発表。財政危機の後の政治危機の訪れで国内政治は荒れ模様になるだろう。財政再建には公共機関における緊縮策も当然ながら、なんと云ってもアイルランドは法人税の引き上げ問題が最大の課題。12.5%と欧州各国平均 27.5%よりはるかに低い水準でこれが外国投資を招いて国内経済を支えている。同国では 190 万人雇用者の内、24 万人が国際的企業で働いており、この外国企業は 2009 年時点で、1100 億ユーロ（13 兆円強）の輸出額でアイルランド輸出の 70%を占めており、国家財政収入に 10%の割合で貢献している。マイクロソフト、Google、Twitter、Intel 等の国際資本が同国に根拠地を持っているが、財政再建の為に法人税を上げざるを得ないと云う事になれば、外国企業の逃避に繋がる。既に Google は法人税引き上げの場合は企業戦略を考えなおすとして早くもアイルランド政府を牽制している。主権を侵すことにもなりかねない EU のリスボン基本条約に対しても一旦批准を拒否し、EU は漸く特別条件を付けて受け入れさせて受け入れさせた経緯もあるアイルランド、「ケルトの虎」と云われた国の今後の国内政治情勢の成り行きを見守って行かねばならない。

< その 3、次はポルトガル、そしてスペイン？ >

ポルトガルでは給与カットと消費税引き上げ等の処置で同国の経済規模にしては大きな財政赤字削減政策を遂行中だが、給与カット、税金（消費税）の値上げに国民は黙っておらず、24 日、ついにポルトガルでは 20 数年振りとなるゼネストが決行された。ソクラテス首相は「如何なる支援も必要としない」と宣言しているものの、市場ではポルトガル国債の利回りが 10 年物で 6.5%に上昇しており（因みに欧州の模範国ドイツは 2.6%、スペイン 4.7%）、市場はポルトガルのソブリンリスクが高まったとして危険な投機的様相を呈してきている。

< 追記 > その後 26 日のポルトガル国会で 2011 年度予算案が採択された。主要点は

財政赤字 2010 年の 7.3%から 2011 年 4.6%に圧縮。その為の緊急処置として 50 億ユーロ規模の予算捻出。その 3 分の 2 は歳出削減（公務員給与 5%カット、昇給・新採用ストップ、年金凍結、医療費・教育費・住宅費等の税控除上限設定等々）、3 分の 1 を付加価値税（消費税）の引き上げ（21%から 23%）による歳入増としている。尚、ポルトガルの銀行群の対政府エクスポージャーが本年 3 月の 3 分の 2 程度から現在 4 分の 3 程度以上になっており、アイルランドは銀行が財政危機を招いたのに対し、ポルトガルでは政府債務が銀行危機を招いているともいえる。一方、スペインも同様大がかりな財政緊縮政策を実施中で、ザパテロ首相は CNN チャンネルでの特別インタビューでも「公共赤字の削減は進行中でその目標到達に向かって進んでいる。スペインは絶対に支援を必要としない」としているものの市場での不安間は消えていない。

< その 4、ギリシアは今？ >

欧州で最初に国際支援を受けたギリシアの現況はどうなっているだろう？23日、IMF、EU委員会、欧州中銀の3者（「トロイカ」）が現状視察の為にギリシアを訪問。5月に総額1100億ユーロ（14兆円強）の国際支援を受け入れたギリシアに、今回その枠内での3回目の90億ユーロの注入を前にした現状チェックである。ギリシア政府は「成長率は今年度マイナス4%見通しにも拘わらず、財政赤字は15.5%から9.5%に下降」、「全ては順調」としているも、財政赤字削減の当初の目標であった2010年、8.5%には到達せず、緊縮政策の為に企業の収益及び消費者収入も引っ張られて停滞または後退している事で今後の進展に暗雲を感じさせている。一方、緊縮政策に対する不満は12月半ばゼネスト予定等の象徴される社会騒動の懸念されているところ。次年度の経済成長率が予定通りで無い場合には、最終的にはIMFモリスケジュール（貸付金額の返済期限の延長）を考えねばならないとしているところ。

*相変わらず厳しい環境にある欧州PIGS諸国。フランスも第3次フィヨン首相内閣は財政緊縮を2012年の大統領選までの第一課題としている。従来「聖域」であった公務員の解雇も可能とする議論も浮上してきているところ。「何処も同じ厳寒の到来」と云うところ。ただ、そんな中でドイツ経済が好調。独個人消費が伸び活況化している。対独輸出ではフランスは1位中国、2位オランダに次ぐ3位に過ぎなく、フランス輸出産業はせっかくの隣人の個人消費上昇を享受出来ていないのではないのか。

16. カトリック/ローマ法王が世界の枢機卿を招集

18日、ローマ法王は枢機卿を招集して宗教会議を主宰。カトリックの「国会版」に当たるもので203人の枢機卿（内選挙権が有る枢機卿は121人）が世界各地から集合。会議開催の直接きっかけは10月31日に起こったバクダッドでの過激派イスラム教徒による教会襲撃（53人死亡）の攻撃であるが、カトリック教会はこの事件に象徴される如く過激派イスラムを含めたイスラム教に対する対応策を主題にしている。カトリック教徒はアルカイダより「正当な（攻撃）ターゲット」とされており他にも様々なカトリック教徒攻撃事件が発生している。また、カトリックは他にも共産圏直での問題（中国カトリック教会はローマ法王の許可なしに司教任命問題（外部の権威が国内の組織を支配することを認めていない共産中国の原則が生きている）、インドにおける反キリスト教徒攻撃（インドにおけるナショナリズム運動に関連）等にも直面している。イスラム問題やこの中国、インド問題以外でもバチカン以下の通り大きな問題を抱えている。

1. アングリカン（英国教会）対応。アングリカンでは女性司祭への叙階や同性間結婚承認等、バチカンから見れば“行きすぎた進展”が有るが、こんな傾向に不満なアングリカン教徒が保守的カトリック教会に移行を表明しているが、これが両教会での紛争の種になっている。

2. プロテスタントに対する「優位性」問題。十年前に出版された或る枢機卿、ジョセフ・ラッツインが（現在の法王）の名で出版されている書物の中に、「キリスト教会、即ちカトリック教会である」とか、カトリック教理がプロテスタント教理に対し“優越性”を持つ等と、カトリック、プロテスタントの教理論争に火を付けるような表現が多い事で問題視されている（カトリックの「優位性」に就いては一般のカトリック信者の間でもやや戸惑った感じを抱くものが多いとされている）。

3. 典礼改革。司教職位のものはラテン語のミサを行う事等かつてのポール6世法王が進めたカトリック“優越性”の典礼改革を現在のバチカンは静かに進めている事。

4. 性虐待問題。カトリック聖職にある人による未成年児に対する性虐待。近年、過去になされたこの様な行為が世界各国で明るみに出されている。

以上が信者十億人を持つカトリックの総本山バチカンの抱える問題である。

尚、この会議の後に、以前から法王をよく知るドイツのジャーナリストによって書かれた「世界の光」

が出版されたが大反響を呼んでいる。これは現在のベネディクト 16 世法王との対話の記録に基づいて書かれた本。その中で HIV 感染を防ぐ目的での限定的コンドームの使用が許されると有るところが、如何なる避妊も認められないとするカトリックに取って大きな進歩であるとして、カトリック信者達の間でも好意的に受け止められている。一方、イスラム女性の全身を覆う衣装ブルカの禁止政策は宗教的慣行を禁止するものとして批判している。更に、ユダヤ人問題で波紋を投げかけて来た元ピウス法王 11 世を、むしろユダヤ人を救ったところが多いとして評価しているが、これにはユダヤ教側やドイツ側から反発を招いている。

* 以上 11 月 19 日付け当地フィガロ紙の記事を基に纏めたもの。

17. パリの不動産価格急上昇、過去最高記録

パリ及び近郊首都圏の不動産価格がここ 1 年来大きな伸びを示し過去最高を記録した。特にパリ市内の中古住宅(伝統的な古マンション)の平均取引価格が 7030 ユーロ/平米と前年同期比で 13.8%上昇し、過去最高記録 6680 ユーロ/平米を更新。フランスの不動産価格の伸び率全国平均の 8.6%に比べ、パリ及び首都圏の不動産価格の伸び率は大きい理由として、1) そもそも物件数が少なくなって買い手の需要を満たすことが出来ない、2) 既に不動産取得で売買益を手にした人が、新たなる次の投資の為に市場に戻って来ている、3) 外国人によるパリの高級物件取得傾向が更に大きくなっている等の他、更に 4) 銀行の低金利が後押しをしている、事等が主な理由とされている。また、金融・経済危機の中でパリ及び首都圏の不動産投資が一番確実な投資と考える人が増えていると云う見方もある。尚、銀行の低金利に関して云えば、物件取得に 15 年ローンで平均金利 3.4%、20 年ローンで 3.55%(何れも固定金利)と、一時期から見ると銀行はかなり“蛇口を開いている”状況。また物件取得の際の頭金も 10%程度で承諾する銀行もあり、場合によっては頭金なしと云うケースもあるとされる。2009 年の 10 月号で「フランスの不動産事情」をレポートしているが、因みに当地フィガロ紙の本年 11 月 26 日付け記事に基づいたパリの不動産価格(古住宅平均)を以下。

区	価格	伸び率	区	価格	伸び率
(パリ市内)(ユーロ平米)		(前年同期比)	(パリ市内)(ユーロ平米)		(前年同期比)
1 区	9,290 ユーロ	16.8%	11 区	6,680 ユーロ	12.5%
2 区	8,249	21.5%	12 区	6,650	15.1%
3 区	8,710	19.9%	13 区	6,640	15.3%
4 区	10,030	15.4%	14 区	7,110	11.3%
5 区	9,050	13.7%	15 区	7,250	15%
6 区	10,640	12.8%	16 区	7,970	11.1%
7 区	9,840	6.9%	17 区	6,650	13%
8 区	8,510	10.3%	18 区	6,290	15.9%
9 区	7,130	13.5%	19 区	5,710	18.6%
10 区	6,540	18.8%	20 区	5,770	12.5%
パリ 20 区伸長率平均		;	13.8%		(前年同期比)

18. スイス / 犯罪外国人の自動的国外退去

19 日スイス政府が国民にかけたスイス国内で犯罪を犯した外国人の自動的退去に関する憲法改正法

案を国民投票で、52.9 対 47.1%の賛成多数で改正法案を承認。賛成派は特にフランス語圏地域（ジュネーブ、ローザンヌ等）で多数を占めた。スイスでは昨年の 12 月にミナレ（モスクの尖塔）の建設の可否を巡る憲法改正の国民投票が行われ、ミナレ建設反対派が多数を占めた経緯が有り、今回の犯罪外国人の自動的国外退去賛成派が多数と出たことで、スイスにおける国民の外国人排斥感情が高揚している事が証明された形となった。「外国人」と云う場合は主にイスラム系の国からの移民を意味していることは明らか。EU に加盟していないとは云え、欧州の中央に位置するスイスでこの様な移民排斥派が多数占める事が明らかになった事は、移民融和策、調和された多文化主義を標榜する EU 諸国にとってはやや厄介な例となった事になる。

19. ウィキリークス、米国務省関係の情報公開

ウィキリークスのウェブサイトは既にペンタゴン（米国務省）機密情報公開などで波紋を投げかけて来たたりしたが、此の度同サイト及び世界的に知られた新聞 5 社が、同サイトが入手している米国務省関係情報を順次公開して行くことになったと、30 日付仏ル・モンド紙が報道。同紙によれば情報公開の新聞 5 社とは、仏ル・モンド紙、米ニューヨーク・タイムズ紙、英ガディアン紙、独デル・シュピゲル紙、スペインエル・パイス紙（何れも高級紙として国際的に知られた新聞社）であり、此の米国務省関係の情報は 2004 - 2010 年の間、国務省と米大使館で交わされた情報 25 万件を含んでいると云う。この様な不測の情報公開に対し米国務省による強い反発と抗議が有るが、同サイト及び新聞各社はオックスフォード大学教授の「歴史家が 20 - 30 年間、あるいはそれ以上の長い期間を経て手にする情報を短期間で提供するもの」とする等の積極的意義を強調する意見の紹介等を行うことによって、秘密の情報公開を肯定的に捉えている。早速フランス関係では、2003 年の米国によるイラク侵攻を糾弾した当時のシラク大統領、ドビルバン外相に対して、サルコジ氏（当時内相）がやり過ぎで有ると批判し、その後もむしろブッシュのアメリカに協調してイラク派兵も考えていた事、更にサルコジ氏の親米的態度は米外交官から評価されており、欧州で最も影響力を持つ指導者と見做されていた事、一方、サルコジ氏の行動パターンに就いては「優れたプラグマテイス、短気、外交的ではないが、活動的でその行動は予測付かないところが有るものの、刷新的」などとの評価を下している事、等が此の「ウィキリークス」サイトが入手している外交文書で解かるとしている。

*そもそもウィキリークスは世界各地で体制派から非論理的な行為を受けて圧殺されている事に対する、「犠牲者」側からの声を伝えることを主目的にし、投稿者の匿名性が厳守されているウェブサイトだと云う。一方、30 日のメディア報道によれば、国際刑事警察機構（ICPO、本部は仏リヨン）は、「ウィキリークス」創始者のジュリアン・アサンジュ氏（39 歳、オーストラリア人）を女性に対する性的暴行罪等の容疑で国際手配をした模様。何だか「情報戦争」勃発の匂いがして来たような感じだ。

06 日本の伝統文化

松本 並子

国宝源氏物語絵巻

財界人による争奪戦

この秋に開催された五島美術館の開館 50 周年を記念した『国宝源氏物語絵巻』展に出かけてきました。

この絵巻は一部個人蔵などを除き、大半が東京の五島美術館と愛知県にある徳川美術館に所蔵されている絵巻すべてと復元模写 19 面を展示しているというものでした。二つの美術館の絵巻が一堂に会するのは約 10 年ぶりということで、連日待ち時間が数時間に及び大変な盛況ぶりでした。

『源氏物語』については、以前（DeepInside2007 年 5 月号）にも書きましたので詳しくは書きませんが、紫式部という女性によって平安中期（11 世紀）に書かれた 54 帖から成る、登場人物 100 人以上にも上る大長編です。この大長編をモチーフに様々な二次創作が生み出されましたが、その現存作成物の中で一番古いものが、この『国宝源氏物語絵巻』なのです。

この絵巻物の制作年は、12 世紀前半頃、源氏物語の成立から約 150 年ほど経った時代に描かれたとされています。作者は不詳。この作者を明らかにするべく多くの研究がされてきて、論争も起きていますが、未だに解明していません。



絵巻についての専門的な解説は退屈かもしれません。しかし、この徳川美術館と五島美術館にこの絵巻物がやってくるまでの『物語』は面白いのでここに紹介したいと思います。

そもそも五島美術館はどんな美術館であるかといえば、東急電鉄創設者である五島慶太とその息子・昇が二代にわたって集めた美術品（茶器なども含む）を所蔵している美術館です。徳川美術館はその名の通り徳川家に伝わる美術品などを所蔵している美術館です。最終的にはこの二つの美術館に主な絵巻が所蔵されることとなります。

まずは絵巻が制作された時代に溯ってみましょう。12 世紀前半頃、鎌倉時代です。その後、この絵巻が再び歴史上の資料に登場するのは江戸時代であり、54 帖のうち 10 帖分が尾張徳川家に渡り、3 帖分が阿波蜂須賀家（徳島藩の大大名）へ渡ったということがわかります。この続きは、『五島美術館「国宝 源氏物語絵巻」展覧会図録』の「はじめに」（同美術館学芸部による執筆）を読めばわかります。

明治維新以降、旧大名家が没落し、実業家が富裕層になってきたために『源氏物語絵巻』は散逸の危機にさらされてしまいます。

徳川家本（とくがわけぼん）は昭和六年(1931)に尾張徳川家十九代義親（よしちか）が財団法人徳川黎明会を設立します。これがのちに徳川美術館となる母体ですが、この財団法人に、徳川家が代々もっていた『源氏物語絵巻』を寄贈し、それによりばらばらに売られてしまうことなく今に至るのです。



一方、蜂須賀本は維新の際に蜂須賀家から古美術商へ売られることとなります。これを明治の実業家・益田孝(三井物産の社長、三井鉱山の設立者)が手に入れ、戦後益田家より出た絵巻を、日本のコカ・コーラ事業の父といわれた高梨仁三郎が手に入れます。折しもコカ・コーラの事業に専念しようとしている高梨より、五島慶太が国宝「源氏物語絵巻」や国宝「紫式部日記絵巻」を一括して手に入れることとなったわけです。

こうして様々な人の手を経て、二つの美術館へ集められた貴重な絵巻を、同じ場所で一度に見る機会は滅多にないということで、今回の展示に多くの人が集まった理由はそこにあったようです。

絵巻物語りの価値

この絵巻がなぜ国宝になるほど貴重な存在であるかは、ただ現存する最も古い絵巻物語であるからだけではなく、「吹抜屋台（ふきぬきやたい）」といわれる独特な構図（屋内の情景を十分に表現するために屋根や天上を取り除いて描く手法）と、「引目鉤鼻（ひきめかぎばな）」という顔貌表現方法に平安時代当初の絵巻物語りの画法の特徴が引き継がれているからです。

引目鉤鼻とは、一線で描かれた目とひらがなの「く」の字に描かれる鼻のことです。『源氏物語絵巻』ではすべての男女が斜め正面か、やや後ろからの横顔、また小さな真後ろの姿と三種類のみで描かれているのです。

そうした画一的な描き方にもかかわらず、しっかりとそのシーンでの登場人物の性格や感情などを描き分けているという点に、高い評価を時代時代に受けてきたのです。

また「作絵（つくりえ）」という、平安中期に達成された物語絵の特色を、墨描きの下図を厚い岩絵具で完全に塗り隠し、色を塗っていく段階で構図を替えたりしながら細部を描き上げるというところに見ることができます。

この物語絵独特の伝統を濃厚に持っているために、院政時代前期(十二世紀前半)が制作時期だと認められることになったようです。（参考文献：『国史大辞典』吉川弘文館刊 秋山光和著）

現代にも通ずる臨場感あふれる芸術品

絵巻の前に立てば、そのシーンについて『源氏物語』の箇所を書いてある文章の部分、つまり「詞書（ことばがき）」を読まなくても、絵だけである程度どんな物語が展開されているのかわかり、そのことに驚かされます。

今回の展覧会での最初の展示は『蓬生（よもぎう）』という、あばら屋の庭を二人の男が草をかき分けている様子が描かれている場面を描いたものでした。すぐに末摘花の姫の屋敷に主人公の光源氏がやってきた場面だとわかりました。

源氏が京に不在の間、ひたすら源氏を待ち続けているうちに両親も亡くなり、夫も（つまり経済的庇護者が）いない末摘花の邸（故常陸宮邸）はボロボロに朽ち果てていたのです。そこへ、すっかり末摘花の姫のことなど忘れて、他の女の元へ行こうとしていた源氏はこの屋敷のそばを通り、この姫のことを思い出して中に入り、自分を待ち続けていた末摘花を自邸に引き取るという、その物語を説明文なくしても思い出すことができました。



絵巻はぼろぼろになり、絵も文字もかすれてはいますが、復元模写にはない、物語の世界へ人々を強く引き込む力がありました。800年以上の時を経ても薄れないものがあるものを人は「芸術」と呼ぶのではないかと確信した瞬間でもありました。そして、800、いや1000年の時を経ても『源氏物語』やその絵巻物語りの中で共有できる価値観を持っていることに、ほんのりとした誇りを感じたものでした。



松本 並子（まつもと なみこ）

出版社勤務を経て、フリーの編集者として、主に書籍、電子書籍の編集に携わる。海外在住経験より、「マイブームは『ニッポン』」と題して、日本の良い点を積極的に探求している。

07 編集後記

野上 麻規

「早いものでもう師走」と毎年言っているような？気がするが、今年ももうすぐ終り。

12月の風景としてはクリスマスだろう。

世界各地でクリスマスのための準備が始まり、ヨーロッパでは各地でクリスマス市がたつ。

日本でも最近ではハロウィンが終わるとクリスマスの飾りつけをしている店があり驚いたりする。

飾りとしてはやはりクリスマスツリーがお馴染みだが、なぜキリストの生誕にツリーを飾るのか？という、古代ゲルマンの冬至の祭りではもみの木を生命の象徴として飾ったそうである。

ここに長い間を経てキリスト教との混淆がおきたということである。

ドイツでは1600年ぐらいから飾られたとの記録があるが、イギリスに渡ったのはヴィクトリア女王の夫がドイツ人だったので夫のために飾られたのが最初とある。キリストの生誕を祝う飾りとしては比較的新しい習慣だともいえる。

イタリアではツリーも飾るが、半々くらいでプレゼピオというテラコッタで作った人形でキリストが生まれたときの生誕劇を再現した飾りを飾る。教会や屋外では大きなものだったり、家庭では机におけるものだったり様々である。

そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。

これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。

人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。

ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。



身ごもっていた、いいなずけの MARIA と一緒に登録するためである。

ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、MARIA は月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼葉桶に寝かせた。

宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

(ルカ 2章 1~7節)

このときの馬小屋を再現したもので、もともとはアシジの聖フランチェスコが始めたものと言われていた。必ず馬小屋にイエスと父ヨハネ、母 MARIA となぜか牛とロバのセットが基本のようだが、少し大きくなると東方の三博士(星の導きのもとにイエスの生誕に贈り物を持ってやってきた)が加わる。

日本人には馴染みがないが、クリスマスの意味を知る素敵な飾りである。